聖徒の道
1969年11月20日発行（毎月1回20日発行）第13巻 第11号
昭和42年12月18日第三種郵便物認可

聖徒の道 1969 11

世界の系図

心の糧

副管長 ヒュー B. ブラウン

兄弟姉妹，私がみなさんに申しあげたいことは，あらゆる困難と半信半疑，喧騒と無秩序の世界の真只中にあって，世の大多数の人々が気づかない間に，一つの王国，天父なる神が管理したもう王国が築き上げられており，イエス・キリストがその国の王であるということである。前にも申し上げたように，はっきりとは気づかれないうちにもこの王国は大きな力と勢いで前進している。その力はやがて途上の敵を打ち砕くであろう。それもあなたがたの幾人かが生きている間に。

あなたがたはキリストとその使徒の側に立つ人々でありたいと思うであろうか。またジョセフ・スミスとブリガム・ヤング，デビド O. マッケイ大管長を含む他の指導者の側につきたいと思うであろうか。

今や，その意味で決意を固める時であり，神の御意を行ない，自らを制御し，人を恐ろしい道へとおとし入れる情欲，肉欲，その他のものを抑えることのできる立場に，自らを置く備えをすべき時である。

―― もくじ ――

予言者のことば

現世の目的……大管長 デビド O. マッケイ…… 445

世界系図記録会議……ダグラス D. パーマー…… 447

なぜ系図を調べるか……セオドア M. バートン…… 448

忠実な人々の証……ジェイ M. トッド…… 451

山登りのように……リード H. ブラッドフォード…… 456

日曜学校

あなたは主の代理教師……ナン オズモンド グラス…… 459

それはあなたにとってのすべてである……リチャード L. エバンズ…… 461

MIA

父親を家庭の長に……スチーブン L. リチャーズ…… 462

若人のページ

救い主との約束……W. ディーン ベルナップ博士…… 466

勇気という山の上で……ウエイン リン…… 467

もういちど……チャールズ R. ファーデン…… 468

ローカルニュース…… 470

ふさわしくなること……リチャード L. エバンズ…裏表紙

子供のページ

ちゅうごくのおはなし……ウィリアム・ニーランズ バーバラ・ニーランズ…… 93

小さな貝のひみつ……オルガ オージング…… 96

今月の表紙

数多くの末日聖徒が，過去およそ130年間，彼らに先立った人々のために，神殿の儀式を執行するという，聖なる使命を果たしてきた。彼らを助けるべく教会は，世界のいたる所から系図上貴重な記録を収集し，これらをたくわえてきたのである。また，さらに記録を集めるための，おそらくは最も広範囲にわたる計画が進められている。表紙は教会の系図活動を取材した写真を集めたものである。

現世の目的

大管長
デビド O. マッケイ

「わたしがきたのは，羊に命を得させ，豊かに得させるためである」（ヨハネ10：10）

これは人間に与えられた最大の約束であり，神のみが与え得る約束である。なぜなら，神のみが生命を与え得るからである。私はこの約束の効力を信じている。この豊かな命を得させるキリストの御手の内にあって，教会がそのなかだちであり，代理の機関である故に，私は教会を愛している。

人類の成功，幸福，平和は，パウロが述べた次の言葉にかかっているということを，世の人々はなぜ認めないのであろうか。「肉の思いは死であるが，霊の思いは，いのちと平安

とである。」（ロマ８：６）

主が「あなたは顔に汗してパンを食べ……」(創世３：19）と宣べられて以来，人間の心の中にある霊性に気づかせることが，主の目的であった。何世紀にもわたって，人は霊的にすごすこと，肉欲にふけることのいずれをもその生活の目的として選択する自由があった。人は常にその考えと行動をそのいずれか一方に集中させるものである。今日この世界が最も必要としているものは，霊的に目覚めることである。それは，霊的なものが人の心の最上の思いになるべきであるという意味である。

エデンの園を去れという神の命令を受けて以来，霊的に目覚めることを通してのみ，人間は，そのゆっくりとした，絶えまない，進歩をなし遂げてきた。人間が野の獣にまさっている唯一つのことは，霊的な賜をもっていることである。霊的な徳のないすぐれた知性は人間をますます獣のようにする傾向がある。

人間が現世にあるのは，ただ人間の本能と情欲を満足させる事柄に心と思いと努力を集中するか，あるいは霊的な資質の習得を人生の目的とするかの試しを受けるためである。

神がもし救い主をお与えにならなかったとしたら，人間はどのような状態になっていたかを，また前世の記憶をもってこの世に存在していたらどうかを，ちょっと想像していただきたい。もし主が御計画を啓示なさらなかったとしたら，何が起こるか全くわからないであろう。生命の維持と子孫の永続こそが人間の唯一の目的であり，実際これを他に生きる目的は存在しなかったであろう。人間が渇いた時，水はその渇きをいやし，飢えた時，野の果実はその飢えをみたす。昼の太陽は人を暖め，枯葉とわらは，夜の寝床をしつらえ，毛皮は人を温かくしてくれる。他人が略奪に来て，おいしい鹿肉や果実をとろうとする時，争いが起こる。食欲と情欲をみたすことが人の唯一の目的となったことであろう。かくて，モルモン経にはっきりと述べられているように，人は「生れながら肉の欲とみだらな欲とに満ち，また悪心のある者……」（アルマ42：10）となった。

主はこのことを予測されて，人間に御自身をあらわされ，福音の計画をお与えになられた。人に地と地にあるものを支配させ，それらのものに心を奪われないようにするために，主は「羊のういご」（申命12：６）をたずさえてきて，神へのいけにえとして捧げるように提案され，命じられたのである。あなたがたはこのことについて考えられたことがあるだろうか。通例自分に最もよいものは，より高い力，すなわち霊性を高める第一段階に捧げられねばならない。このように人は自身を否定し，その物質的な欲望を征服し，己れよりも高きに敬虔の念を持てば持つほど，創造者に近づき霊的に目覚める者となる。

何年か前まで，我々は，人間が歴史始まって以来偉大な進歩を続けてきたと考えがちであった。しかし，今日の世の状態を眺めると，その進歩はあるべき姿の千分の一にもみたないことを認めずにはいられない。利己主義，羨望，憎悪，征服，大量殺人などが，いわゆる文明社会の中を暴れ回っている。そして愛と平安と喜びが，人々の心，家庭，生活から消えかかっている。人間はあらゆる文明を誇ってはいるが，霊的な目覚めと理想とがこれほど必要とされる時はいまだかつてなかったのである。

文明はあまりにも複雑に発展して，人が将来を心に描いたり，制御することができなくなってきている。もし人がいやしい資質ではなく，高貴な資質を発展させる必要に，すぐにも気づかなければ，文明の現状は危機にさらされる。

人は霊的になり，決勝点にキリストがおりたもう霊の道を進まねばならない。個人個人が自分よりもより高いものを求めて生活し，救い主の次の言葉を聞くべきである。「わたしは道であり，真理であり，命である。」（ヨハネ14：６）その声に従って間もなく，人は幸福すなわち永遠の生命を得るために努力するほど偉大なことはないとわかるのである。人生は大きな犠牲や義務からなりたっているのではなく，常に与えられるほほえみと親切と小さな責任が，人々の心をとらえ守って，慰めを与えるというような小さな事柄からなっている。

教会はすべての人々に知的，霊的により高い生活を求めるよう，また豊かな生活を求めて努力し勤勉になるように訴えている。

一般にあらゆる人々の心は，いかに生きるかという考えに支配されている。彼らは自分たちの衣食住をまかなうに最もふさわしい，また家族をやしなう助けとなる人生の道を選ぼうと努力している。

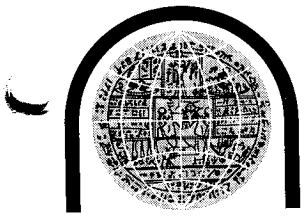
しかしながら，ただ生きることが人生の目的ではない。ただ生きることは，人生の長い旅路を歩む機械を運転し続けることにすぎない。ただ生きることは必要であるが，創造的な生活こそが義務であり，永遠の祝福である。

ただ存在するために生きている人々がある。これらの人々にとって，人生は苦役であり，単なる存在である。単なる存在は生きることではない。ただ楽しみを得るために生きている人々もある。人生にそのような目的をもっている若者が現在あまりにも多い。これらの若者を待っている報いはむなしさと幻滅である。富を得ることが唯一の目的である人々もあり，彼らの報酬の大半は利己主義と人生の美に対する視野の狭さである。彼らの希望がさもしさと落胆の灰と化してしまうことも少なくない。

人生の真の目的は，神の霊感による導きのもとに，個人の努力によって人間性を完成することである。我々をとりまく最もよいものに感応する人生こそが真の人生なのである。

人は豊かな人生への霊的な道をしっかりと歩んでこそ，人生が「神に逢う用意をする時期」（アルマ12：24）であることがすばらしいことを，すこしでも悟るようになるのである。

その時期が終って，人が携えて行くものは主と兄弟と仲間のためになしたすべてのことに関する記録だけである。



世界系図記録会議

ダグラス D. パーマー

系図協会，それは世のまことの宝の箱，記録保存問題に悩む人々を照らすかがり火，系図と歴史に興味を持つ者のオアシスです。

60年祭（75回記念）に際して，1894年11月にわずか一部屋の図書館から始まって，世界的な運動に発展したこの組織は，ソルトレーク市で8月5日から8日にわたり世界系図記録会議を主催しました。

およそ1万人もの歴史家，系図学者，図書館員，記録係，そしてコンピューターとマイクロフィルムの専門家が，この会議に出席しました。

合衆国，ヨーロッパ，南アメリカ，中央アメリカ，メキシコ，カナダ，東南アジア，太平洋諸島，世界の各地から集まった記録保管人，系図の専門家及びアマチュアが出席しました。大会のテーマは「不安定な世の中における記録保管」でした。

どうしてこのような会議が開かれたのでしょうか。そこで何がなされ，その目的は何だったのでしょうか。どこで，どういう方法で，記録は天候や時代，そして火災や人による破壊から守られるのでしょうか。

世界中の大切な書類，原本，歴史，伝記，その他系図上の資料を保管する方法で，人類は長い間苦労してきました。

現在何百万ページもの記録が，系図協会の大規模なマイクロフィルムプログラムによって安全に保管されています。

大きな資料保存庫として広く知られている系図協会には，67万巻以上のマイクロフィルムが収録されています。これは，300ページの本3百万冊に等しい数字です。さらに協会には6百万の完全なファミリー・グループシートの記録と，3千6百万の個人についてのカード式ファイルの索引，9万冊以上にのぼる本の収集があり，多くの人々にその遠大な記録保管計画が知られることとなりました。協会はまた，80ケ所に図書館を持ち，毎日500人の利用者に資料を提供し，世界中から毎週1000巻のマイクロフィルムが届きます。

「私たちは記録を完全に保管したいと思っています」と系図協会副会長兼総支配人のセオドア M. バートン長老は語っています。

「その唯一の方法は，世界中の関心を持つ人々に，自分の記録を大切にさせることです。そしてその記録を保存することです。」とつけ加えています。1964年以来協会に関係しているバートン長老は，大会実行委員です。

バートン長老は記録保存の必要を説いて，「もし記録保管人を一同に集めたら，記録保存に関して意見の調整ができるでしょう」と言いました。協会は近代的な記録方式をとり，ソルトレーク市の東南にあるリトルコットンウッド峡谷の中腹を堀って作ったグラナイト山記録庫に保存庫があります。

協会はその施設を広く世間に見せたいと希望してきました。ひとたび世間にそれが知られると，このプログラムは世に広まり，各地の記録保管人は貴重な書類をマイクロフィルムにとって保存するために，互いに協力してきました。

しかしさまざまな計画を進める一方，協会は絶えず新しい記録のよりどころと，貴重な資料を地道に探しています。

「私たちはもっと資料を必要としています。それを得る一つの方法は，外国へ行って人々と話すことです」。バートン長老はさらに続けて言っています。「しかし，その人たちをここに呼んで，互いに励まし合い，互いに知り合うことができたらどんなにすばらしいでしょう。」

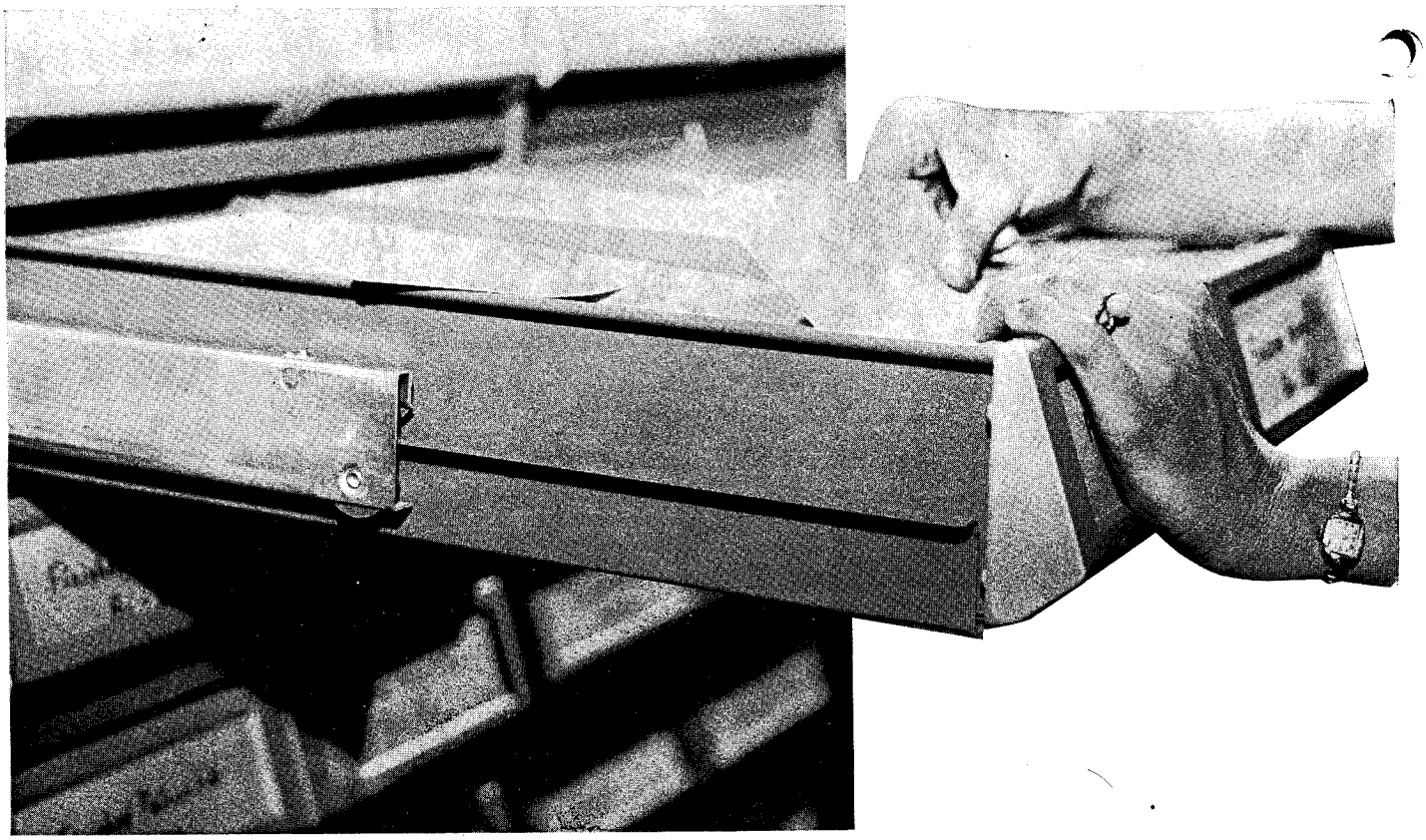
協会は，どの記録が手に入り，どこで見つかり，どう使ったらよいのかを知る必要がありました。

「4年前に，始めて一人の人を日本に派遣した時，彼は何も記録が得られなかったと言って，戻って来ました。それ以来，私たちは数え切れないほどの資料を見つけました。彼が日本へ行った時は，人々は彼のことを物好きな人だと思っていました。その次は，日本の習慣に通じている人が派遣されました。この人は，人々から疑いの気持をなくすことができました。そして，私たちは必要な資料を手に入れたのです。」とバートン長老は語っています。

この会議では，約280人の人が話をし，そのうちの約100人は博士号を持っていました。次にいくつかあげるタイトルによって，大会で，話題にのぼった興味あることがらを理解していただけると思います。

「象牙海岸における書類及び記録保管状況」「スウェーデン法廷記録」「日系アメリカ人，その起源，過去，現在」「イスラエルに集められるユダヤ人の記録」「東太平洋のポリネシア人の系図と家系」「合衆国におけるクエーカー教徒の移動」「1707年以前のスコットランド軍隊と市民軍の記録」「電子による長距離記録電送」「ユーゴスラビアとハンガリーに先祖をたずねて」「アイスランド法廷記録」「合衆国の教会記録」「1800年以前の英国労働者の記録を調べて」などです。

この会議で少なくとも40ケ国以上が，次のような著名な演説者と来賓を代表に送りました。モスクワからロシヤ記録保管所理事長のジェナディー・アレクサンドロビッチ・ベロフ，ロンドンの新聞界の名士トムソン卿，スコットランドのエジンバラよりライアン・モンクレイフ卿，フランスのパリよりフォルス公，著名なオーストリアの系図学者バロン・カール・フリードリッヒ・ホン・フランク，ペルー系図探究協会理事のギレルモ・ローマン・ビレナ，アメリカ系図学者協会会長ケン・ストライカー・ロッダ博士，合衆国国立記録保管所員ジェームス B. ロード博士，ホンコン大学のシャン・リン・ロー，南アフリカ系図協会のコルネリウス・パマ博士，エルサレムのイスラエル歴史協会理事のダニエル J. コーエン，カイロからのエジプト学者ラビブ・ハバチ博士，そして象牙海岸からの駐米大使ティモシー・ンゲッタ・アハウァという人たちです。



系図協会図書館の家族の記録ファイル

なぜ

セオドア M. バートン
十二使徒会補助
系図協会副会長兼総支配人

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は，系図に関して非常に強い関心を抱いている。その関心を抱く理由は系図そのものにではなく，イエス・キリストの福音の時代を越えた普遍性にある。我々がよく理解しているように，福音とは我々の時代や新約の時代だけにあてはまる限られた狭い概念ではない。それはアダムの時代から今日にいたるまで，古代の予言者に知られていた全人類のための福音である。

いつの時代にも福音は完全な形で地上にあったわけではない。幾代にもわたり人々は必ずしも福音を完全に理解しよう

とはしなかったし，その力もなかった。しかしながら神はその限りないあわれみと愛をもって，神の子供達が受け入れ，それに自分自身を一致させることのできる福音を与えて下さったのである。このことに関し，予言者アルマはモルモン経の中で次のように言っている。「ごらん，主はどこの国でもその国の人またはその国の言葉に通じている人に，智恵に於て違っていないかぎり，すなわち自分のみこころにかなう程度に於て神の道をその国民に宣べ伝えさせたもう。それであるから，主が正義と真理とにたがわず賢く万事を取り計いたもうことが明らかである。」（アルマ29：8）

我々は，人種，言語にかかわりなく，この世に住まうすべての人々は神の子供であることを信じている。主は御自身の子供達をすべて高め，昇栄の道へ至らせたいと望んでおられる。しかし他の多くの偉大な教師達が知っているように主御自身も，人間には霊的，知的能力に差があることを御存知なのである。ある人々は真理を真理として容易に理解し受け入れることができるが，なかには真理のほんの一部分をしかも中途半ぱな受け入れ方しかできない人々がいる。神は，あわれみ深く愛ある父として，これらの限られた能力しか持たない人々に，よりすぐれた能力を備えた人々と同じ責任を課するようなことはなさらない。神はすべての人々が理解で↘

↗の神の子供達を愛しておられる。天父との関係は罪と不義によってのみ断たれるのである。義を教える教師として，神は必ずや正しい人々に報いをたれたもうであろう。このことに関してモルモン経の中の予言者アンモンは，雄々しく次のように叫んでいる。

「さて，私の兄弟らよ，神は民がどこに居ってもこれを心にかけ，これを教え，自身の心に満ちている慈悲深い恩恵を全世界に及ぼしたもう。これが私の喜びであり，また私が非常に感謝をするところである。私はとこしえに私の神に感謝を捧げよう。アーメン」。（アルマ26：37）

またこれに関して，ニーファイは次のように述べている。

「……主は人間の中でためになることを為したまい，人間に明らかでなければ何事もなしたまわず，万人が主の御許へ来て主のめぐみにあずかるように招きたもうている。それであるから，主の御許へくる者は黒人と白人，奴隷と自由人，男と女の区別なく誰を拒みたもうこともない。また主は異教徒さえもかえりみたもうから，神の御前にはユダヤ人も異邦人もみな平等である。」（Ⅱニーフィイ26：33）

イエス・キリストが世の人々に人類愛を教える福音を宣べ伝えるようにと弟子を世に送ったのは，このような高遠で普遍的な考えからであった。↘

系図を調べるか

↘き，生活に応用できるような真理を与えて下さるのである。

モルモン経の中のもう一人の予言者は，このことについて次のようにはっきりと記している。

「それであるから，人はみな現世に於て自由であり，およそ人間のためになるものは何でも与えられる。そして万人に為したもうメシヤの大いなる賢い仲裁によって自由と永遠の生命を選ぶか，または悪魔は万人が自分のようにみじめになることを求めているから，その束縛と力とに由って定まる束縛と死とを選ぶか，これは全く人間の自由である。」（Ⅱニーファイ２：27）

主は全人類を一つとみなしておられる。正しい者は神の目にふさわしく，邪悪な心を持つ者は神の目にかなわない者である。

神は片寄った愛を示される御方ではなく，等しくすべて↗

↘「それゆえに，あなたがたは行ってすべての国民を弟子として，父と子と聖霊との名によって，彼らにバプテスマを施し，あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ，わたしは世の終りまで，いつもあなたがたと共にいるのである。」（マタイ28：19～20）

いかにしてこの福音は教えられるべきであったろうか。またどのような方法で教えられるべきであっただろうか。マタイ伝の「そしてこの御国の福音は，すべての民に対してあかしをするために，全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。」（マタイ24：14）というこの真理に強い証を持っている使いたちによってなされるべきであると救い主は説明しておられる。このように，すべての神の子供達が真理を聞き，理解し，受け入れる機会にあずかるまで，最後の裁きは留めおかれるのである。

使徒やイエス・キリスト教会の初期の会員達は，偏狭な考えを持っていなかった。イエスは，伝道の仕事は当時生きている人々だけでなく，死者のためにも行なわなければならないことを教えられた。

「このことを驚くには及ばない。墓の中にいる者たちがみな神の子の声を聞き，善をおこなった人々は，生命を受けるためによみがえり，悪をおこなった人々は，さばきを受けるためによみがえって，それぞれ出てくる時が来るであろう。」（ヨハネ５：28〜29）

このことに関して，使徒ペテロは初期の教会の聖徒達に手紙を送り，詳しく説明している。

「キリストも，あなたがたを神に近づけようとして，自らは義なるかたであるのに，不義なる人々のために，ひとたび罪のゆえに死なれた。ただし肉においては殺されたが，霊においては生かされたのである。こうして，彼は獄に捕われている霊どものところに下って行き，（霊界で）宣べ伝えることをされた。これらの霊というのは，むかしノアの箱舟が造られていた間，神が寛容をもって待っておられたのに従わなかった者どものことである。その箱舟に乗り込み，水（バプテスマ）を経て救われたのは，わずかに八名だけであった。」（Ｉペテロ３：18〜20）

ペテロは，イエス・キリストの福音がなぜ死んだ者の霊にも教えられなければならないか，その理由を説明している。

「死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは，彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが，霊においては神に従って生きるようになるためである。」（Ｉペテロ４：６）

死者の救いのための身代わりの儀式が，実際に初期の聖徒たちによって行なわれていたことは，使徒パウロの言葉から明らかである。パウロは人々が死んだ先祖のために身代わりのバプテスマを行なっていることに言及し，復活が真実なものであることを説いた。

「そうでないとすれば，死者のためにバプテスマを受ける人々は，なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらないとすれば，なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか。」（Ｉコリント 15：29）

偉大なヘブライ人の予言者の一人，マラキは将来を予言し末日に生を受ける人々の心に起こる大きな変化について語った。マラキは主に代わって来たるべき様子を語り，かつ書き記している。

「見よ，主の大いなる恐るべき日が来る前に，わたしは予言者エリヤをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ，子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て，のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。」（マラキ４：５〜６）

1836年のエライジャの来訪により，子供たちの心はその先祖たちに向けられはじめ，父と言われる族長の予言が彼らの子供たちのために成就されはじめた。

あらゆる真理と力を備えた福音が再び人々に与えられると，宣教師達は主の民を集めはじめたのである。我々は集められ，一つの種族となり，我々の心は先祖の探究に向けられた。「全世界に出て行って，すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし，不信仰の者は罪に定められる。」（マルコ16：15〜16）この戒めに従うために，我々は先祖を探究し，彼らのために聖なる儀式を受けるのである。

我々は，あらゆる病い，因襲，迷信から解放され，邪悪で無知な指導者や教師の支配をまぬがれて霊界にいる人々が，この世でよりも霊界において，より素直に真理を受け入れ，理解するであろうと信じている。義の救いにあずかるためにこれらの真理を選ぶか否かは，彼らの自由意志によるのである。

このようにして，我々は記録を捜し求め，死者を見出し，我々の家族に加えるために系図の原則を用いる。イエス・キリストを主，または世の救い主として受け入れる人々が，一人として神より見捨てられることのないように，我々は死者に代わってバプテスマを受けるのである。

遣わされた者が霊界の霊たちに福音の真理を伝える時，我々の先祖は，自分のために行なわれた儀式を受け入れるであろうと希望し，また確信している。こうして，死者が救われるだけでなく，我々の子孫も，我々の父，祖父に与えられてきた神権という絆で固く結ばれ，守られるのである。

全人類が完全に一つの家族になるように，我々末日聖徒には主により次のような戒めが与えられている。

「この故に汝ら戦を棄て平和を宣言し，子供らの心にその先祖を思わせ，先祖の心に子らを思わせんことを熱心に求むべし。而して，またユダヤ人の心に予言者らを思わしめ，予言者らの心にユダヤ人を思わしむることを勉めよ。これ，われ来りて咀いをもて全地を打ちすべて生くる者のわが前に焼き尽されざらんためなり。」（教義と聖約98：16〜17）

すべての人々に，我々は皆兄弟であること，またイエス・キリストを信じる信仰，すなわち真の愛の福音と同胞愛によって，全人類が死後も生きることを確信させることによって，はじめて平和が来るのである。このように我々は，人間はすべて同胞であるという考えから系図を探究する。

これこそ平和を見出すための最も確かな，最上の方法であることを我々は堅く信じて疑わない。

忠実な人々の証

ジェイ M. トッド

末日聖徒の系図探究と，それに伴う主の宮における死者の儀式に関する報告は，その業にたずさわる多くの人々の霊的な経験により完成される。

系図とその究極の目標である神殿の仕事について，この業を行なう末日聖徒と共に語り合う時，実に，人々の神聖な出来事についての証に耳をかさずにはいられない。死者の救いの儀式を執行するという神聖なつとめ以上に，聖霊の賜を証明するものはおそらくあるまい。夢，示現，暗示，霊的な導き，特別な導き，承認の示しを受けた人々による報告などは，系図に関心を抱く末日聖徒にとってあたりまえのこととなっている。

教会の初期の出版物は，系図探究に伴う霊的な経験に満ち

あふれている。さらに近年になると，通信機関が全世界にゆきわたり，神わざといわれる数々の経験の証に対して，無関心さらには反感までが社会全般に広まってきて，教会の会員たちは自分たちの経験を信仰ある人々の集会または家庭の中だけで話した方が賢明であると悟っている。しかしこの業でさらに新しい活動を進めるという切実な願いと，この大切な活動が神の御手にあるという厳粛な証を持って，次のような最近の出来事が述べられている。その経験とは，現在死者のための儀式を行なっている多くの人々が，同じように経験しているものである。プライバシーと神聖な個人の経験を尊重して，記事は匿名で報告されている。

その多くは，自分の先祖に関する資料を得るために，困難をきりぬけた経験である。次の記事はその代表的な証である。

「1953年のこと，私は夫の母の遺言で彼女のファミリー・グループシートを完成するために，ノルウェーの支部の記録を調べに教会歴史事務局に行きました。2度そこへ行って，調べられる限りの記録を調べましたが，ファミリー・グループシートを完成することはできませんでした。もう一度調べてみようと思って，係の人に，もっとオスロ支部の記録簿がないかどうか尋ねました。係の人は，そこにある記録は全部見せたと答えました。私はもう一度見て下さい，と頼みました。調べ始めて少しすると係の人は戻って来て，どういうわけか記録簿が一冊置き場所が違っていたが，見つかったと言いました。隣りの部屋へ行って，その記録を一通り調べている時に，欠けていた家族の記録が見つかりました。記録簿から写し始めた時，私はあまりに強く先祖たちが自分のまわりにいるように感じられて写せないほどでした。目で見ることはできませんでしたが，彼らがそこにいるという気持は言葉に言いつくせないものでした。先祖達が私のしたことを認めてくれていることがはっきりわかりました。私はこのノルウェーの家系をたどって行って，何百という名前を探し出し，神殿での儀式を受けました」

聖霊の導きをよく受けている末日聖徒は，次のような経験がどこからくるものかを知っている。

「ある朝，私は英国から来た曾々祖父の結婚に関して系図図書館で数時間フィリモア結婚索引を調べました。前にも，これを調べるために何時間か費しましたが，無駄骨を折りました。昼頃になり，私は，ソルトレーク神殿に行って，記録がマイクロフイルムにのっていない親子の結び固めを調べることにしました。それが終ると，4人の子供がそろそろ学校から帰る頃なので，家へ帰ることにしました。しかし，バスに間に合うように急いでいる時，「図書館に戻って，もう一度ジョージのことを調べてみてはどうか」という思いが強くわきました。夕飯の仕度をする時刻だと考え，それまでの思いをふり払って，バスの方へ向かって行きましたが，不思議なことに私の足は，知らず知らずのうちに図書館の方に向いていました。家へ帰らなければならないことに気がついた時なぜ図書館に引き返していたのか，まったくもって私にもわかりませんでした。図書館に入ると，私は真直ぐにフィリモア結婚索引の棚の所へ行き，その中の1冊を取って急いでページをめくりました。そこに，私は曾々祖父の結婚届を見つけました。長い間問題となっていたことが，急にしかも私には奇跡的とも思われる程に解決したのです」

記事の大部分は次のようなものである。

「私の夫の父方の祖父は，英国から移民して来た改宗者で町から町へと移って行く小作農でした。小さな黒い本に，彼は自分の10人の子供，両親，それに2人の兄弟と1人の姉妹の生年月日と名前を記録していました。これで家族が全部かどうかについては，何も記されていませんでした。

神殿の儀式を受けたいと思って，私はファミリー・グループシートを準備し系図協会に提出しましたが，すべての資料を調べないうちは受け付けられないとの返事でした。英国で子供の出生を届けるという法案が可決され，1837年に実施されたのだから，英国の戸籍本署に手紙を書けば，この家族の戸籍と死亡証明書が手に入るにちがいないと思いました。しかしこれをする前に，私は祖父が住んでいた地域の英国国教会の教区記録簿を調べて，1941年に生存していたと思われる家族に手紙を書きました，それは無駄でした。そこで，戸籍本署に手紙を書きました。正確な教区記録簿か宗派がわからなければ，援助できないという返事がきました。この時までに私は人口調査，州報告など考えつくすべてのことをやっていました。

1956年1月15日の朝，夫が仕事に出かけ，子供が学校に行った後，私は問題の資料を台所のテーブルに広げ，ひざまづいて心から涙ぐんで祈りました。『もしこの業が真実ならば

そしてあなたが私にこの業をさせたいとお望みなら，私には助けが必要です。私にはこれ以上進めることができません』私は立ちあがると，太字で記録簿に書かれた一つのメソジストという文字が目に入りました。すぐに私はメソジスト派教会のどこかに，私が窮地に落ちいっていた鍵があるのだとわかりました。

牧師の名前がわからないので，手紙が快よく受け取ってもらえるように導きを願って，ひざまづいて祈りました。私はその地域のメソジスト派教会の監督に手紙を書きました。メソジスト派教会の牧師から，エレンという名前の女性に関する資料を添えた一通の手紙が送られて来ました。

そのエレンというのは夫の曾祖母であることがわかりました。２番目の手紙はもう１人の牧師から送られたもので，それには，エレンはその牧師の母にあたり，私が探していたのは牧師の叔父だと書いてありました。それからの一年半というもの，彼は多くの資料を提供してくれました。彼の助けがなければ，家族の移動により夫の祖父の出生が詳しく届けられていないために，ファミリー・グループシートを完成できなかったことでしょう。ベールを越えた誰かの導きがなければ，私たちの目的は達成されなかったでしょう」

死者の訪れもありえないことではなく，次にあげるのは２人の姉妹の経験談である。

「1968年の12月に，妹と私は，私たちシーラー家の系図のうち不明の箇所を調べようと，かなりの時間を費しました。私の健康がすぐれないため充分に助けてあげられないので，私はソルトレーク市にある系図文庫へ行く前に祈り，私たちに必要な資料が与えられるように導きを願いました。妹も共に祈りました。私たちは計画どうり図書館でおち合い，一階の南側に席を選びました。

席につくと，私たちのテーブルの近くに，婦人が一人と男性が２人座っているのに気がつきました。その婦人は自分のテーブルに背を向けて，まるっきり私達の方へ向き直っていました。男性の方は机をはさんでこちらを向いていました。３人とも私達をじっと見ていました。何もせずにただ私達の一挙一動を見守っていました。私達が記録を探しに机を離れた時，彼らは顔を寄せて相談を始めました。このようなことが午前中いっぱい続きました。彼らが私達に非常に興味を持っているようなので，私は彼らが誰なのだろうと思いました。私もその婦人を見つめかえし，彼女の顔をじっと観察して，どこかで会ったことがあるかどうか思い出そうとしていました。彼女も私を知っているような目つきで，見ていました。私は，彼女が自分のことを知らせたいのだろうと思っていました。

お昼になって，私たちが食事をしに行こうとしていると，彼らは今度は立ちあがって近寄って来ました。婦人があまり熱心に私を見つめているので，私は再び近づいて行きたい気持になりましたが，何かにひきとめられました。そして昼食をとるため急いでいたので，その思いをふり払いました。」

もう一人の姉妹が続けて，

「昼食後，私たちはファイルカードの中からシーラー家の歴史を探しましたが，見つかりませんでした。アメリカのシーラー家についての本は見つかりましたが，英国からのシーラー家とアイルランドのシーラー家との間には何の関係もありませんでした。それは，系図探究相談員が私たちの家系につながるものだろうと教えてくれたものでした。私が歴史を調べていると，次のような声が聞こえてきました。

『図書館の中に，シーラー家の歴史がある。行って探しなさい。』

私はすぐに家族史の棚のところへ行きました。しかし，「S」の場所に一人の女性が座っていたので，その人のじゃまをしないように，私は「R」の場所で欲しい本を数冊とりだしました。

もう一度，あの棚に戻らずにはいられない気持になり近づくと，さっきの女性がまだ座っていて私に尋ねました。「私の後にあるものをお探しですか。」私は，「シーラー家の歴史を探しています。」と答えました。彼女はちょっとふり返ると，ためらわずに一冊の本を私に手渡しました。それはアメリカのシーラー家に関する小さな本でした。この本の中に，私たちは確かに探していたものを見つけることができました。資料によると，シーラー家の中にはクロムウェルによってアイルランドに連れて行かれたものがあるということで，その本の中には絵がたくさん入っていて，私たちは何枚かを見ました。

その日も終りごろになって，私たちは次の日もここへ来てさらにその本を調べることにしました。一階に行くエレベーターに乗り，正面玄関に行きかけた丁度その時，私たちは同

時に一つのことを思い出しました。妹が「私戻ってあの本の絵をもう一度みてこようと思うの」と言いました。「私も」即座に私はそう言いました。

もう一度本を開いて，そこにクロムウエルの息子ジェームス・シーラーとよく見なれた顔の妻ハリエット・ブラウンの絵を見つけました。妹は「午前中ずっと私たちのことを見つめていた人だわ」と言いました。私と姉はたびたび意見が合わないのですが，この時ばかりはぴったりと意見が合いました。「確かにそうだわ」私もすぐにそう答えました。次の日も系図文庫へやって来て，ハリエット・ブラウンが訪れたのは，私たちにあの本を見せるためだったことをはっきりと知りました。

その後，私たちは曾祖母がこの家族を知っていたことを確認しました。おもしろいことに，私たち二人ともあの男性の顔を思い出せないのです。私たちは祈りとなしたことがらに答えが与えられた経験を通して，本当に祝福されたことを強く証しします。」

夢の中に現われることについての記事も多く載っている。たとえば，オーストラリアのブリスベン・ステーキ部長であった故ウィリアム　E．ウォーターズ氏が報告しているように夫が会員でないステーキ部内の女性についての記事もある。

彼女は夫の死後時々，彼女が座っている庭に門を通りぬけて入ろうとしている夫の夢を見た。夫は彼女に，『門を通って中に入ることができないのだよ。錠は君のそばにあって，その中に鍵が入っているんだ』と話しかけた。彼女は夫のために神殿の儀式を受けたいと強く心を動かされた。

神殿での特別な儀式が，死後の世界の人々にもわかるというしるしも珍しいことではない。ある大学教授とその妻が，最近神殿で養子と結び固めをした。その妻は神殿長に次のように報告している。「あなたがこの子を私たちに結び固めていらっしゃる時，儀式を執行している間ずっと，私の母があなたのすぐ横に立っていました。」

もう一つの最近の出来事は，1968年4月30日のことある神殿訪問者の上に起こりました。「私が身代りの儀式を受けようとしていた姉妹が，彼女の誕生日が違っているために困惑していることを私に知らせました。そして名前の読み方の間違っているのを指摘しました。」とその人は報告している。

系図協会から系図資料を生み出す基礎的な記録を得ること以上に，聖霊をはっきり証明する場はない。一見，不思議な方法で，系図図書館に記録が加えられている。次の記事は，図書館員による報告である。

「ついせんだってのこと，私たちはかなり前に引退した英国の一牧師が，何十年にもわたって入念に集めた600以上の古い英国郡住所氏名録を受け取りました。彼の家の近くには軍人宿舎があって，そこに住んでいた数人のアメリカ軍人の態度と行ないに感銘を受けて，彼はぼう大な収集品をアメリカの図書館に遺贈することに決めました。彼はいろいろ調べた結果，ソルトレーク市にある系図協会を選びました。」

もう一つの出来事は，「一人の若い帰還宣教師が，ニューイングランド州ディア・アイランドの，ある高名な医師の未亡人が所有している系図と歴史資料の目録を持ってやってきました。この医師は，長い間ペノブスコット湾上流地帯に住む人々の記録の収集という趣味をもっていました。この未亡人と連絡をとり，私たちは，2日間にわたって記録を調べました。この種の収集品は，個人のものとしてもニューイングランド最大という評判でした。この記録は，50年以上にもわたる努力と広範囲に及んで患者を訪問した結果集められたものです。

私たちの調べた結果を知らせた後，未亡人に，他の団体へ行って資料を鑑定してもらうように言い，合衆国内で彼女の収集品を欲しがりそうな大きな図書館の名前を教えました。彼女は東部の大きな図書館を訪れ，売る段になった時のことをこう言っています。『どうしても交渉をやめて，一番早い方法で家に帰り，系図協会に電話をかけたい気持にかられました』その後，この未亡人は教会に入り，『どうしてもこの記録を教会に持って行かなければならないと考えた理由は，今私にはっきりとわかっています。』と述べています。」

しかし，このような記録は，救いの儀式を必要としているすでに死んだ先祖たちについての資料を提供するという点でのみ，宗教的な価値がある。

神殿の仕事にたずさわる人々の神聖さをあらわす出来事について，前ロンドン神殿長だったセルボイ　J．ボイヤー兄弟が報告している。

「私がロンドン神殿を管理するように召された時，資格を持って奉仕した夫婦をただ一組しか知らないロンドンで，どうやって神殿で働く人を選んだらよいのですかと，マッケイ

大管長に尋ねました。大管長は『名前のリストを集めて下さい私が検討してみましょう』と言われました。そこで，1958年9月の土曜日献堂が終わってから，マッケイ大管長は『名前のリストはできましたか』と尋ねられました。『はい』と答えて，私はポケットからリストを取り出しました。リストには12カップルの名前をのせました。

大管長は，『どうぞ，読みあげて下さい。』と言われました。大管長はその人々にほとんど会ったこともなければ，握手をしたこともありませんでした。私は『～兄弟，姉妹』と名前を読み上げました。すると大管長は，「その二人はいいですね。」と言われ私がもう一カップルの名前を言うと，大管長は「その人達は使わないで下さい」と言われました。リストを完全に検討して，神殿で働くのに必要な6カップルを選びました。私は承認されなかったカップルの名前を，興味深く見つめていました。予言者は一人一人について正確な判断を下されました，なぜならそのうちの幾人かは教会から去っていったのです。」

系図と神殿の仕事に対する意欲は，教会の会員が受ける個人的な祝福師の祝福によって多く啓発されている。何十万もの末日聖徒は，次のような祝福の言葉の中で与えられている約束とその成就によって，道を示され支持されている。「汝の召しは，国の内外に及び，古き人々の記録を調べん。されば過去の記録は汝の前に開かれん。そは汝の特別なる召しにして，もし汝その召しに忠実ならば，主の生きたもうごとく，汝はこれを成就せん。」「あなたはこの世界から福音の光の中に先祖の死の網目からとき放つに必要な働きをなすように召されているのである。彼らは福音について教えられ，今や彼らの霊はあなたのもとに来て，あなたの未来に非常に大きな影響を与えるであろう。」

こうした神聖なつとめに刺激され，説明できない力に動かされ，そして死後の世界にいる人々の願いを受けていながら世界中の末日聖徒がこの聖なる業を行うために，健康をとりもどし，さらには寿命がのびたことを証明してどこが不思議であろうか。同じような理由で，神殿の業を成就するために多くの人が感動的な方法で犠牲を行なっている。

「私の人生で最大の経験は，神殿に来る教会員によってなされる犠牲を知ることです」と，ソルトレーク神殿の第二副神殿長であるエドワード H. ソレンセン兄弟は言っている。「彼らは神殿に来るために，善いことは何でもやります。この12月のこと，クリスマスと新年の間の金曜日に，男の人とその妻，そして5人の子供がニュージャージーからやって来ました。私は彼らに，どうやって来たかと尋ねると，彼らは大平原にある悪路をさけて，合衆国の南部を車でやって来たと答えました。父親は，『私は休暇をとり，子供は学校を休んで，クリスマスの費用で，神殿に来て結び固めの儀式を受けることにしたのです。今年は，神殿で子供と結び固められる時に受ける賜以外に，贈り物はないのです。これが今までで最高のクリスマスプレゼントです。』と言いました。」

今一つは，神殿で結び固めをするために，テキサスからずっと小型トラックで来たという10人の子供がいるスペイン系アメリカ人の家族である。

ソルトレーク神殿のO. レスリー・ストーン神殿長は，教会中の神殿で働く人々に，このような意見を述べている。「あなたがたが，神殿で大切な業をなす時には，「みたま」の導きと天父が発せられる力を感じなければなりません。神殿の仕事を原則的に象徴するものは，神は人をかたよりみられる御方ではないということです。あなたがたとえ誰であろうとも，その業にたずさわる時には，あなたの親しい兄弟にするようでなければなりません。それは私たち神殿で働く者と同様に，儀式を受けにくる人々にもあてはまることです。ソルトレーク神殿に，千人以上もの奉仕している人がいます。またふつうの労働者と同じ責任を持って働く百万長者もいます。銀行員，弁護士，医者，れんが職人，機械工，ありとあらゆる職業の人がいますが，神殿においては兄弟愛の精神が，実際に霊界にいる私たちの愛する先祖の救いのために働いているのです。それは，私が今まで行なってきたどんなことよりもより多くの人により大きな喜びと幸福をもたらす業なのです。神様はこの業を日々祝福したまい，この業に熱心に励む者は誰でも必ず，その業が神様のものであるという燃えるような証を得るのです。」

以上は，系図と神殿の仕事にたずさわる人々の経験と気持を述べたものである。実に救い主は約束されたのである。「神のみこころを行なおうと思う者であれば，だれでも，わたしの語っているこの教えが神からのものか，それともわたし自身から出たものか，わかるであろう。」（ヨハネ7：17）

山

イエスはますます知恵が加わり，背たけも伸び，そして神と人から愛された。（ルカ２：52）

されば，彼は始めに完きを受けずして絶えず恩恵に恩恵を加えられ，ついに完きを受けしなり。（教義と聖約93：13）

少女の悲しみは深く，大きなものでした。彼女の話を聞いていると，私は若きアルマのことを思い出しました。

それから私は自分が犯した一切の罪のために非常に良心のとがめを受け，永遠の責苦を感じた。私は本当に自分のあらゆる罪と悪事とを思い起して，そのために地獄の苦痛を感じ，また神に逆らってその聖い命令を守らなかったことを認めるようになった。私は神の子らを多く，亡ぼしたのである。私は自分の犯した罪が非常に重かったから，自分の神の前に出なくてはならぬと思うだけで言いようのない恐怖で身も霊も引き裂けるように苦しんだ。その時私は，自分の神の前に立って自分の行為によって裁判を受けないように，霊も肉体も一しょにみな消えてなくなってしまえばよいと思った。（アルマ36：12〜15）

この少女は以前に同じ失敗をしていました。彼女はすぐに心から悔改めようとしました。救い主の教えられた多くの原則の意味を知っていました，そしてそれらを生活の中で実行しようとけんめいに努力していました。彼女の学校での成績は抜群でした。長い間かかって，彼女は知的，情緒，社交の面，特に霊的な面で成長しました。

そして，また誤ちを繰り返してしまったのです。何もかも失なったような気持でした。態度にも，事実生活全体になげやりなところがありました。

悔改めを一種の全てか無かの状態と考えている人がたくさんいます。このように考えるとすると，その人はアルマが感じたと同じように感ずるでしょうし，ダンテの言うのろわれた人々が「ここに入る者に希望はない」と書かれた地獄門の碑を読む時と同じ感じがするでしょう。

けれども，積極的な見方もあります。それには，すべての人々が理解しなければならない意味をもった一連の概念も含まれています。

登りのように

リード H. ブラッドフォード

動機づけ

天父と救い主は，私達が御二方のようになることを望んでおられると，繰返し述べておられます。「知恵が加わり，神と人から愛されて」救い主が成長されたように，私達も成長するよう望んでおられるのです。

次の聖句を考えてみてください。

小さき羊の群よ，おそるるなかれ。われ今汝らを咎めず，行きて二度と罪を犯すことなかれ。…（教義と聖約6：34 35）

彼ら罪を犯すといえども，わが胸の中彼らに対して憐みに充つ。（教義と聖約 101：9）

誠にかくの如く，主わが愛する汝らに言う。汝らの罪赦されんために，愛する汝らをまた懲しむるなり。そは，懲しめるとともに汝らがすべてに於て誘惑より免るる様われ一つの途を備うる故にして，われもとより汝らを愛す。

（教義と聖約95：1）

これが天父が私達になしたもう動機づけです。この動機づけは，私達がお互いに対して持たねばならないものです。

絶えず成長する

他人の行動にもどかしくなることがよくあります。また自分自身に対してもそうです。けれども，成長には時間が必要であることを忘れてはなりません。20〜30歳位にならないと肉体的に成熟したとは言えません。私達は他人が子供じみたことをしたり，罪を犯すのを見ると悲しく思います。けれども，一夜にして肉体的に成熟できないように，私達は短期間のうちに情緒，社交，知的，特に霊的に成熟の域に達することはできないのです。多くのものは，時がくればひとりでにその本来の姿になります。ちょうど醜いあひるの子が白鳥になるように。若きアルマは悔改めて，はじめて救い主に愛されていることを知りました。アルマは救い主と個人的な約束をしました。

……私がすでに神によって生れた……さて，見よ，主は私の働きから生じた結果によって私を非常に喜ばせたもう。私はあらゆる試み苦しみ悩みに迫られたときに助けを得てこれを忍ぶことができた。私は今も神を信じて頼っている。神はこれからも私を救って下さるにちがいない。

（アルマ36：23，25，27）

これは，子供達を助けたり，お互いに助け合う時の態度です。この態度があってこそ，両親は子供との関係を正しく保つことができます。また子供は，いつも成長し，ものごとをなしとげ，喜びを得て欲しいという親の望みを理解できるのです。こういった両親は，いつも救い主の与えられた原則の意味を教え，子供が失敗しても忍耐することができるでしょう。

罪は進歩の妨げとなる

主の教えられた原則を間違って理解し，受け入れ，実行すると，進歩の妨げになることを知っておく必要があります。「律法を破り律法を守らぬ者は，律法によりてもまた愛憐，正義，審判によりても聖くせられ得ず」(教義と聖約88：35)

悔改め

私が誤ちを犯したら，その罪を心から後悔するに違いありません。そして，どうしてそんな誤ちを犯したかを考え，それを二度と繰返さないように全力を尽します。罪そのものは一種の罰なのです。「罪悪は決して幸福を生じたことはない。」(アルマ41：10)

赦し

救い主は，私達が主のようになるための方法を，自らお示しになりました。救い主は贖いをなさいました。「見よ，われは神なるに，人もし悔い改むるならばこの苦しみを受けざらんがために，すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたり。」(教義と聖約19：16)

イエスは，もし私達が一定の条件に従えば，私達の罪を許して下さるとたびたび述べておられます。「見よ，およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され，主なるわれもはやこれを忘るべし。」(教義と聖約58：42) これは，正直で心からしなければならないと，主は述べておられます。次の聖句はモロナイの最も大切な言葉の一つです。

……もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば，神は聖霊の力によってこの記録が確かなものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。(モロナイ10：4)

これは次の主の御言葉のテーマでもあります。「彼らは唇もてわれに近づけど，その心はわれに遠ざかれり。」(ジョセフ・スミス2：19)

・　・　・

私の前に悲しみに打ち沈んで座っている少女を慰めてあげるには，どうしたらよいでしょう。その方法をいくつかあげてみましょう。

1．彼女は自分の心の神聖さに信仰を待つべきです。

私達はすべて天父なる神の子供です。天父の霊の子供として，私達は天父の神聖さをいくらか受け継いでいます。まただれもが神の霊の子としての可能性とそれぞれ独特の賜をもっています。私達はこの地上で人々と生活していますので，この神から与えられたひらめきを見失いがちです。自分と比べてすぐれた能力を持っている人々がいます。大切なことは，他人と比べるよりも，与えられている賜を伸ばすことで満足することです。

2．彼女はキリストの原則を勉強し，理解できるように祈るべきです。

これは一生涯の仕事です。もし心から求めるならば，主は次から次へと明かしたまいます。

3．誤ちを犯した時，彼女はそれを認めるべきです。

また主と害を及ぼした人々に，正しく告白しなければなりません。

……この主の聖日に於ては，いと高き者に汝の捧物と聖式とを奉りて，兄弟たちに向い主の前に於て汝の罪を告白するを忘るべからず。(教義と聖約59：12)

けれども，直接関係ない人や信頼できない人に罪を犯したことを話す時は，気をつけなければなりません。

4．主が許して下さることを忘れてはなりません。

主なるわれは死に当るべき罪を犯さずしてわが前に罪を告白し，赦しをわれに乞う者にはその罪を赦すなり」(教義と聖約64：7)

5．自分と他人を許さなければなりません。

この故にわれ汝らに告ぐ，汝ら互いに赦し合うべきなり。そは，人その兄弟の過ちを赦さざれば，その人主の前に罪に値する故にして，そは更に大いなる罪なお彼に在ればなり。(教義と聖約64：9)

ペテロが何度兄弟を許すべきかと主に尋ねたところ，主はこのように言われました。「わたしは七たびまでとは言わない。七たびを七十倍するまでにしなさい。」(マタイ18：22) もし，私達が他人の神聖な目的の達成を助けようと思うなら，このように許したいと願うことでしょう。「互に情深く，あわれみ深い者となり，神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように，あなたがたも互にゆるし合いなさい。」(エペソ4：32)

これは山登りにたとえることができます。失敗したり，ころんだりしても，いつも起き上がります。失敗から学んで，正しい方法を求め，上へ行けば行くほど，本当の喜びを感じ陽気になるものです。そして，正しい道を行くことができるようになるものです。

……その罪を捨ててわれに来り，わが名を呼び，わが声に従い，わが誡命を守るあらゆる人々は，わが面を見てわれ在るを知ることあらん。(教義と聖約93：1)

わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。……わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は，わたしを愛する者である。わたしを愛する者は，わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し，その人にわたし自身をあらわすであろう。(ヨハネ14：18～21)

子供のページ

ちゅうごく の おはなし

ウィリアム・ニーランズ
バーバラ・ニーランズ

ずっと むかしの ことです。ルーアンという おとこの子が，ぐるりと かべでかこまれた 町のそとにある のはらに立っていました。

「おとうさんは どこにいるんだろう」と，ルーアンは ひとりごとを いいました。

ほこりっぽいじめんを みましたが，へんじは ありませんでした。しずかな水たまりを のぞきこみましたが，空がうつっているだけでした。空を みあげました。けれども なにもなかったのです。空のくもも，おとうさんが どこにいってしまったのか おしえては くれませんでした。

ぼろぼろのマントをきて，つばのひろい むぎわらぼうしをかぶった ひとりのおじいさんが，ゆっくりと ルーアンのほうに あるいてきました。

「あなたは わたしの父に あいませんでしたか」と，ルーアンは たずねました。

「なまえは なんというのかね」と おじいさんが ききました。

「ルーリンです。町のきたにある 水門（すいもん）のそばに すんでいる 詩人（しじん）なんです」と ルーアンは こたえました。「皇帝（こうてい）に きらわれて，宮（きゅう）ていから おいだされたんです。ぼくには 父が どこにいってしまったのか わかりません」

おじいさんは，つえに よりかかりました。そして しばらく なにも いいませんでした。

「わたしが その皇帝なのだよ」ついに おじいさんは いいました。ルーアンは じめんに たおれて，ひたいを土にふれるほど ひれふしました。

「立っても いいんだよ，ルーアン。おまえの父は わしにきらわれて さったのではないのじゃ。いいや そうではない。さがしに いったのじゃ。ルーリンは，わしの宮ていには ないものがあると いったのだが，それで わしはおこったのだよ」と その皇帝は いいました。皇帝は，せなかを まっすぐに しました。

「わたしは 天帝（てんてい）の むすこなのだ」と いうと，皇帝は 目をかがやかせました。そよかぜが いけの水に ささなみをおこし，おじいさんの白いひげがなびきました。

「わしの宮ていには，ほうせきも じょうとうの きぬも一ばんうつくしい絵も，せかいで 一ばんりっぱな詩もある。それらは みな めずらしいものじゃ」そういうと，皇帝は すこし ほほえみました。

「おまえの父も たくさん 詩をかいたが，いってしまったのじゃよ」皇帝は ためいきを つきました。「おまえの父は，もっとりっぱな なにかを さがそうとして，宮ていをでていった。わしの そばにいるものたちの 心のなかには，そういうものが なくなっているのだよ。しじんは，いつも もっと りっぱなものを さがすものなのだ」

「父は，なくなってしまったものは 川のなかにあると いっているんです」と ルーアンは，はずかしそうに いいました。「そして かぜのなかや，じめんのなかにも。だから ぼくは 町を でてきたんです」

「そうなのじゃ」と 皇帝は いいました。「それで わしは おひゃくしょうの なりをして，じぶんで このへんをあるいておるのだ。だが，父をみつけるのは おまえの しごとで わしではない。よく わかっている。おまえは，くうきや じめんや 水に はなしかけるだろう。くうきや じめんや 水は，きっと おまえを たすけて くれるだろう。くうきも 土も 水も あらゆるものの 生みのおやだからのう。だが ただ一つ たりないものがある。火じゃ」

「そうなんです」と ルーアンは いいました。

皇帝は わらって，ゆびから ゆびわを ぬきました。

「それでは，このルビーを とっておきなさい」と 皇帝はいいました。「火は これじゃ」。

「まほうの ゆびわですか」ルーアンは たずねました。

「わしの ゆびわじゃ」と 皇帝は いいました。「それでだいじょうぶだ。おまえを まもってくれるし，たすけてくれるだろう。さあ いきなさい」

ルーアンは うやうやしく おじぎをすると，みちを ひ

きかえしました。皇帝は，町の門へと　あるいて　いきました。

「おまえは　すぐ　かえってくるだろうが，そのときにはわしのにわに　きなさい。そのときまでには　ももも　うれていることだろうから」と　皇帝はさけびました。

ルーアンは　一ぽんのひもに　ゆびわを　かけると，くびのまわりに　それを　むすびました。ルーアンは　おとうさんを　さがしながら，あるきつづけました。

「ぼくには，おとうさんが　どこに　いってしまったか　さっぱり　わからない」と，ルーアンは　ゆびわを　力まかせに　ひいて　いいました。

石は，目のまえの　小みちに　ころがりおちました。「山は　すべてのものの　はじめです」と　石は　いいました。「わたしのせんぞは，そこから　きました。山に　いきなさい」

ルーアンは　山のほうに　むきをかえると　つかれるまであるきました。

「山は　すごく　大きいなあ。どうやれば　おとうさんのいるところが　わかるのかなあ」と　ルーアンは　いいました。

かえるが，あしもとの　川のきしの上に　とびはねました。

「川は　すべての　はじめです。いつも　わたしの　せんぞのせわを　してくれましたよ。川に　ついていきなさい」と　かえるがいいました。

ルーアンは，山のたかいところに　つくまで　川の母といわれる　楊子江（ようすこう）のきしを　あるきつづけました。ゆっくり　あるいて，ときどき　すわっては　やすみました。

「川は　ながいなあ」と，ルーアンはいいました。「どうすれば　おとうさんが　みつかるんだろう」

つぐみが，水の上に　つきでている　だんがいから，とびおりました。

「わたしたち　とりは，じょうりゅうの　いずみのちかくにすをつくります。そこで　おとうさんが　みつかるでしょう」

ルーアンは，川かみの　いずみのちかくで　おとうさんをみつけました。

「さがしていたものは　みつけたの」と　ルーアンは　ききました。

「わからない」と　おとうさんは　いいました。「あしのかげで，わたしと　いっしょに　まちなさい。なにがおこるか　みえるだろう」

たいようが　しずむと，あざやかな　いろのはねをして，にんげんほども大きい　二わのとりが　いずみのほとりに　あらわれました。

「皇帝の　ひみつのとりだ」と　おとうさんは　ささやきました。「あのとりは　なんびゃくねんも　みた人が　いなかったんだ。たいそう　だいじなことが　おころうとするときでなくては，あらわれないんだよ。わたしが　ここにやってきてからというもの，とりは　まいばん　やってきたのだよ。これから　とりが　つぎに　どんなことをするか　みようと　まっているんだ」。

ルーアンは　どきどきして　くびのまわりのひもを　ひっぱったので，ひもは　ほどけてしまいました。皇帝のゆびわは　どてをころげおちて，とりのあしもとで　とまりました。

二わのとりは，そのゆびわに　ひくく　おじぎを　しました。それから，大きいほうのとりは　よぞらにむかって　あたまをあげて，すんだ　フルートのようなこえで　なきました。ルーアンと　おとうさんは，「あし」のなかで　かぜにひびく　そのこえを　ききました。やわらかな水のおとも　しました。あしもとの石も　うたっているように　おもわれました。

おとうさんは，ちゅういぶかく　一ぽんの「あし」をきって，しずかに　ふきました。「あし」からは　おなじ　おとがでました。

小さいほうのとりは　また　おじぎを

しました。そしてあたまをあげて　もう一ど　なきました。

「こんどは　ちがうおとだ」と　ルーアンがいいました。「ぼくに　やらせて」

ルーアンは　みじかいあしをきって，おとをだしました。二わのとりは　だまって　立っていました。

「あまり　ひくすぎるよ。もうすこし　きりなさい」と　おとうさんがいいました。

ルーアンは，すぐに　きれいなおとを　だしました。

もう十かい，とりたちは　きれいなこえで　なきました。ルーアンと　おとうさんは，「あし」をきって　そのこえに　あわせました。つぎに　ふたりが　みあげたときには，二わのとりは　いませんでした。

「これが　宮ていには　ないものなんだ」と　おとうさんは　いいました。「これが　わたしの詩には　ないものなんだ。ききなさい」

おとうさんは　つづいて「あし」のしげみに　むかって，ふきました。

ルーアンは，皇帝のゆびわを　やっと　ひろいもどしました。ふたりは　いえにむかって　あるきだしました。ルーアンは　川のほとりを　おどりながら　いきました。おとうさんは　ずっと　あしぶえを　ふいて　いました。かえるたちが，きこうとして，どてに　はいあがって　きました。水どりがふたりの　あたますれすれに　とびました。だんがいの石はきれいな　あしぶえの　こだまを　かえしてくれました。

皇帝は，ルーリンと　ルーアンを　じぶんのにわに　むかえました。そして　あしぶえのおとに　みみを　すませました。それから，にわつくりのどうぐを　わきにおいて　王のふくをきました。

皇帝は，ルーリンを　ほめたたえて　大へんな　ざいほうを　あたえました。ルーアンには　かごにはいった　ももをあたえて　ともだちになりました。皇帝は　うつくしいねいろの　きんのあしぶえと，青銅（せいどう）と　ぎんのかねを　しまってありました。

皇帝は　そのかねを　ひみつのばしょに　かくしていました。というのは，ダッタン人たちが　くにをあらそうとして　おどして　いたからでした。

皇帝のぐんたいが，もう　やばん人たちを　おさえることが　できなくなったときに，やばん人は　町のなかになだれこみました。ダッタン人は　宮でんを　うばいました。すばらしいきぬは　やぶられ，どろだらけにされました。絵は，ふみつぶされました。きんや　ほうせきは　ぬすまれました。きんのふえはとかされて　わすれられて　しまったのです。

やがて，皇帝は　宮でんに　もどりました。

「みんな　なくなって　しまいました」と　宮ていにつかえていた　ルーリンは　いいました。

「みんなでは　ない」と皇帝はいいました。

皇帝は，にわにのこされたものを　みつけようと，ルーアンをつれて　にわに　はいりました。皇帝は　たいそう　としをとっていて，いまでは　土をほることは　できませんでした。そこで，ルーアンが　かわりにほりました。そして，青銅や　ぎんでできた　かねを　みつけました。皇帝は，それを　ももの木のしたに　うめておいたのです。

まだ　かねには　にわの土が　ついていましたが，そのかねからは，ルーアンが　おぼえている　すんだ　ほんとうのねいろがでました。

そして，それからずっと，せかいには，おんがくが　あるのです。

小さな
貝のひみつ

オルガ・オージング

みなさんは「じんがさ貝」について，きいたことがありますか？

じんがさ貝というのは「なんたい動物」で，火山やじんがさのようなとがった貝がらにもぐりこんで，海べに住んでいます。貝がらの大きさは，やく２センチのものから，10センチのものまでいろいろです。貝がらの中の小さい動物は，頭と２つのしょっかくと大きな足を持っています。この足は海辺の岩にすいつく役目をします。あまりピッタリとくっついているので，何かかたいものをさしこんで，足の下をやわらかにしないと，足を動かすことはできません。

あるじんがさ貝は，貝がらのてっぺんにあながあって，「かぎあなじんがさ貝」とよばれています。けれども，たいていの貝には，かたい貝がらがあります。

日中，貝は一か所にとどまっています。夜になると，大好きな海草をさがしに，遠くまではい出て行きます。海草を見つけると，貝は，小さなアゴと自分の二倍もあるような，やすりのような舌で，エサをかきあつめるのです。

貝はまた，ふしぎなひみつを持っています。それは，どうしてなのか，今までだれも知らなかったかたい「ひみつ」なのです。というのは，貝はどんなに遠くまではい出て行っても，もとの場所へ帰る道すじをちゃんんとわかっているのです。だから一度その場所におちつくと，貝は今までと同じ方向へ顔をむけています。暗いうちに家に帰り，朝までには前と同じ所にいるのです。たいていの貝がらは岩やそのまわりのものとまざりあった灰かっ色をしています。からをかたくとざしているかぎり，貝はてきにおそわれることがありません。貝もときどき息をつかなければならないので，そのときには貝がらをちょっと持ち上げるのです。貝のてきは，ときどきとびかかってくる鳥たちです。

ある科学者たちは，貝はにおいで家までの道を知っているのだと言い，また他の人たちは，夜動きまわる時に貝はあしあとをのこしておいて，家にもどりたいとき目に見えない小道をとおって帰るのだと言います。でも，なぜ同じ場所にもどり，なぜ正しい方向をむいているのかというのは，小さな貝のひみつなのです。

日曜学校

あなたは主の代理教師

ナン　オズモンド　グラス

末日聖徒イエス・キリスト教会の教師に召された人はすべて代理教師です。つまり，救い主の代理をするのです。「みたま」の導きにより，兄弟姉妹は教師という大切な召しにあずかります。ですから福音の教師はキリストの権能のもとに召され，教師がそれにふさわしければ，キリストの指示を受けて教えるはずです。

すぐれた教師は，他の人にクラスを任せた後のことを考えています。彼は自分の代理教師に，効果的な教授法をすべて教えているはずです。イエスもそうでした。助けを求めてくるすべての人々に対して，イエスは，「見よ，われは光なり。われは汝らのためにすでに模範を示しぬ」（Ⅲニーファイ18：16）と述べられました。

教え方を学ぼうとする者に対して，キリストが与えられた模範は，４つの原則に分けることができます。それは，霊感高潔，勤勉，洞察力です。

霊感：主により頼む

キリストの教えに関して，最も強調すべきことは，キリストが霊感に頼られたことです。

わたしは自分からは何もせず，ただ父が教えて下さったままを話していた。（ヨハネ８：28）

すべての事は父からわたしに任せられています。（マタイ11：27）

わたしは，自分からは何事もすることができない。……それは，わたし自身の考えでするのではなく，わたしをつかわされたかたのみ旨を求めているからである。（ヨハネ５：30）

イエスは祈りによって天父のみ旨を求められました。聖典の随所にそのような言葉があります。

イエスは寂しい所に退いて祈っておられた。（ルカ５：16）

朝はやく……イエスは起きて寂しい所へ出て行き，そこで祈っておられた。（マルコ１：35）

復活したキリストはニーファイ人を訪れた時，祈るため四度にわたって席をはずされました。（Ⅲニーファイ19：19～31参照）

イエスの代理教師になりたいと思うならば，祈りを通して主により頼むという模範に従わなくてはなりません。「われが汝らの中に在りて祈りし如く，汝らもわが教会員の中に在りて祈れ」（Ⅲニーファイ18：16）

祈りの条件

イエスは，祈りの大切さだけでなく，祈りに必要な条件も教えられました。祈りを捧げるにあたって，最も大切なことの一つに信仰があります。

而して，汝らが必ず受くと信じて，わが名によりてたえず御父に乞い求むるものは，その正当なるものなる限り，すべて汝らに与えらる。（Ⅲニーファイ18：20）

もう一つ祈りに欠くことのできない条件で，余り強調されていないものがあります。その条件について，「主よ，わたしたちに祈ることを教えてください」という弟子の問に対して，主はたとえ話を引用して，失意にある時も絶えず祈るようにと答えられました。また，友人のところへ行って，パンを貸してくれるようにしきりに頼んだ男の人に与えられた答はこうでした。「面倒をかけないでくれ。もう戸は締めてしまったし，子供たちもわたしと一緒に床にはいっているのでいま起きて何もあげるわけにはいかない」イエスは続けて言われました。「しかし，よく聞きなさい，友人だからというのでは起きて与えないが，しきりに願うので起き上がって必要なものを出してくれるであろう」（ルカ11：７～８）同じ真理が，しきりに裁きを求め，ついにその熱心な訴えにより認められた，未亡人のたとえ話に教えられています。（ルカ18：３～５）

高潔：誠実と悔恨

イエスはまた，神は悔改めぬ者の祈りを聞きとどけたまわないから，人はへりくだった心と悔いる精神を持たねばならないとお教えになりました。この真理は，キリストの模範にある第二の原則，すなわち教師は高潔でなければならないことを教えています。

マタイ伝4章で，キリストがみわざを始める前に，サタンの誘惑を受け，悪魔に打ち勝たれた時，神に仕えようとする者は，肉欲をおさえなければならないと言われたことが記されています。「人はパンだけで生きるものではなく，神の口から出る一つ一つの言で生きるものである」（4節）

神の摂理を恐れたり，疑ってはなりません。「主なるあなたの神を試みてはならない」（7節）

この世の富や力よりも神に仕えることを求めるべきです。「主なるあなたの神を試みてはならない」（10節）

いつも神のみに仕えようと努力することによって，教師は主のみわざをなすにふさわしい高潔さを身につけることができます。

勤勉：レッスンに精通する

イエスは勤勉さを示されました。私たちは，イエスがどのように学問を得たかについてほとんど知らされていません，しかし，イエスが知識を得るために努力されたことは確かです。ルカはこのように記録しています。「幼な子は，ますます成長して強くなり，知恵に満ち，そして神の恵がその上にあった」，そしてその後の聖句に，12歳の時イエスはそのすばらしい知識で神殿の博士たちを驚かせたと記されています。

イエスは伝道中，いつも知識に基づく権威をもって話されました。今日すぐれた教師は，十分な準備の大切さを知っています。教科書に精通しようとしない教師が成功するはずはありません。事実，イエスは霊感を受ける前提条件となる準備をなさいました。「汝ら熱心に教えよ，さらばわが恩恵は汝らに伴う」（教義と聖約88：78）

熱心に準備するためには，時間と能力を惜しみなく使う必要があります。イエスが人々のために自らを投げうっておられたことについて，マルコが感動的に述べています。イエスはバプテスマのヨハネの死の知らせを受けると，群衆の前から退き，疲れ切って，「食事をする暇もなかったからである」（マルコ6：31）と，マルコが言っているように，空腹をおぼえておられました。けれども，従って来る群衆を見られて，イエスは「深くあわれんで，いろいろと教えはじめられた」（マルコ6：34）イエスの伝道の中でもこの個所は，キリストが熱心で己れを考えない神への奉仕をしていたことを示すものです。

洞察力：教え方

十分な準備や仕える心と同様，教師は成功したいと思うなら，もう一つ大切な点でイエスの模範に従うことが必要です。教師は洞察力を持たねばなりません。それは，人の性質と学習過程そのものを洞察する力です。不幸なことに，博学と言われる多くの教師も，教え方に関して理解が不足しているために，生徒の心を動かすことができないでいます。この点について，イエスは非常に大切なことを教えられました。イエスはすべての教えの中で，その場に最も適切なテクニックを使われました。

イエスは聞く人々の限界をわきまえて，人々の環境に見合った例を交えて話されました。知らないことを教えるのに身近な言葉で話し，土を耕す者に種をまく人のたとえ話をし，主婦には神の王国を種を入れぬパンにたとえ，青年には花嫁のたとえ話で準備の大切なことを教え，漁師に対しては人の漁師になるようにと言って召されました。イエスはすべての教えに，真理を具体例で示されました。岩の上に建てた家は壊れることがない，からし種ほどの小さな信仰でも，成長して大きな枝を張り，その陰に空の鳥が宿るほどになる，などイエスの教えは比ゆに富んだものでした。

人格を尊重する

人は行動を起こす前に，それが利益になるかどうかを確かめたがる性質があるとイエスは教えておられます。山上の垂訓を調べただけでも，イエスは正しい行ないの報いをなんとはっきり示しておられることでしょうか。イエスは御自身を，生命のパンまた闇を貫ぬく光であると述べられました。イエスの教えは積極的でした。イエスの伝道を研究してみると，人を卑下するのではなく，支持し，励ますことの大切さがわかります。また，すべての人は尊敬と威厳を受ける価のあることを知っています。それは，私たちがすべて神の子供だからではないでしょうか。

霊感・高潔・勤勉・洞察力をもって教えれば，私たちは，主イエス・キリストを代表するにふさわしい者となることができます。私たちはよき羊飼いの足跡に熱心に従えば，私たちの教える生徒が「飢えたる羊は見上げるが，食物を与えられない」と言われることはないでしょう。

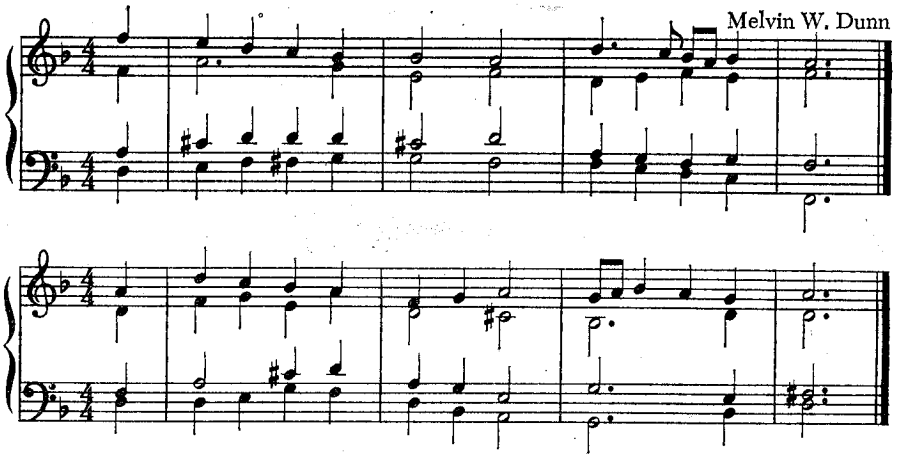
「それはあなたにとってのすべてである」

リチャード L. エバンズ

人生の目的の幾分かを短かい言葉に表わしたエマーソン* の詩がある。「あなたのほとんどはあなたが建設せよ。それはあなたにとってのすべてだからだ」。人は片時も，また永遠に自分を分かつことができない。我々は常に自分自身と共にある。我々はいつも変らず自分を伴っている。我々は心と霊と肉体の結合したものである。それをいかに用いていようが，用いていまいが……。学ぶこともできるし，無知でいることもできる。訓練して上達することもできるし，進歩せずにいることもできる。徳をめざして人生の健全な機会を捕えることも，あるいは，達成できたはずのことを充分にやり遂げないでいることもできる。我々は自分の記録をつけている。毎時間，毎分の決定や選択によって，自分の中身を築いているのである。もっと多くをなすことも，もっと少なくなすこともよし，しかし，我々は自分自身から逃れることはできない。若者は時に，労働や学業や人生に多くの努力を費す必要はないと考えて，何をなすでもなくたださまようことがある。/日々を適当にうまく切り抜け，遊んで過ごし，できるだけ努力をしないで……と。それは他の人を落胆させるであろう。だが，結局それは彼自身をだめにすることに他ならない。学ぶことをせず，働きもせず，自分を備えて自分のために何かを産みだすことを怠った彼自身をだめにするのである。実にエマーソンは言った，「人は，己れをほかにしては，何人からもあざむかれはせぬ」。学ぶ機会に無関心な者，律法を破り，低い道を選ぶ者，モラルを低め，人の体や心や霊を損なうものを生産し，広める者，彼らは先の見えぬ者である。人生は永遠である。そして，探求はより高きを求めて永遠に続かねばならない。学問，進歩，奉仕の力にすぐれること，明らかで平安な良心を抱いて生き，清く，誇らかに，健康に，幸福に生きること，敬虔と崇敬の心をもって自分のなりうる最上の者となること。「あなたのほとんどはあなたが建設せよ。それはあなたにとってのすべてだからだ」。少ししか行なわない者は，愚かで先の見えない者である。

*ラルフ　ウォルドー　エマーソン，1802～1882，アメリカの随筆家，哲学者，詩人

今月の前奏曲



11月のサクラメント・ジェム

大人日曜学校

「わたしのいましめは，これである。わたしがあなたがたを愛したように，あなたがたも互に愛し合いなさい」

（ヨハネ15：12）

子供日曜学校

「愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は，神から出たものなのである」

（Ｉヨハネ４：７）

父親を家庭の長に

スチーブン L. リチャーズ

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員である私たちには，地上に神の王国を築き，守るという，他の何にも比べられない重大な責任があります。これから申しあげる提案が，皆様の実際の生活に役立つことを心より願っております。……

壁を食い荒らすごく小さな虫よりもさらに捕えにくく恐ろしい白アリが，王国の基礎である家庭に広がりつつあります。それを阻止する手段がぜひとも必要です。

この言葉

私はテーマに関して話を用意しましたが，それが御婦人のみなさまにとって，不快なものとならないように望んでおります。ニューヨーク州ブルックリン最高裁の高等裁判官であるサミュエル S. ライボビッツ氏が数ケ月前にジス・ウィーク誌に載せておられた記事が，最近リーダーズ・ダイジェストに再び掲載されました。「少年犯罪を防ぐこの言葉」というタイトルで，氏は「父親を家長の地位に戻しなさい」という言葉を言っています。

21年間を刑事専門弁護士として，また16年間を裁判官とし

て，長年青少年犯罪の実態を研究し観察して来られたライボビッツ氏の記事を，みなさま方の多くはすでに読まれたことと思います。ここでは幾つかの統計をひいて，彼の言っている結論を述べるだけで充分でしよう。彼はヨーロッパを訪れ，以下の各国の18才以下の青少年による犯罪のパーセンテージを公報によって知りました。

イタリア	性犯罪　2％，	殺人犯罪 0.5％
フランス	性犯罪　7％，	殺人犯罪　8％
ベルギー	性犯罪　12％，	殺人犯罪　1％
イギリス	性犯罪　16％，	殺人犯罪　1％
ドイツ	性犯罪　15％，	殺人犯罪　1％

ところが，実に悲しむべきことにアメリカ合衆国においては，18才以下の青少年による性犯罪は全体の35％，殺人犯罪は12％にも及んでいます。合衆国の十代の犯罪は，統計に見られる各国の青少年犯罪の最高18倍にも達する発生率です。ライボビッツ氏は，このような相違には何か大きな原因があるに違いないと考え，ヨーロッパの国々において青少年犯罪のパーセンテージが少ないおもな理由は権威の尊重にあり，それは，父親を家族の長として家庭を尊重することによるものであるという結論に達しました。

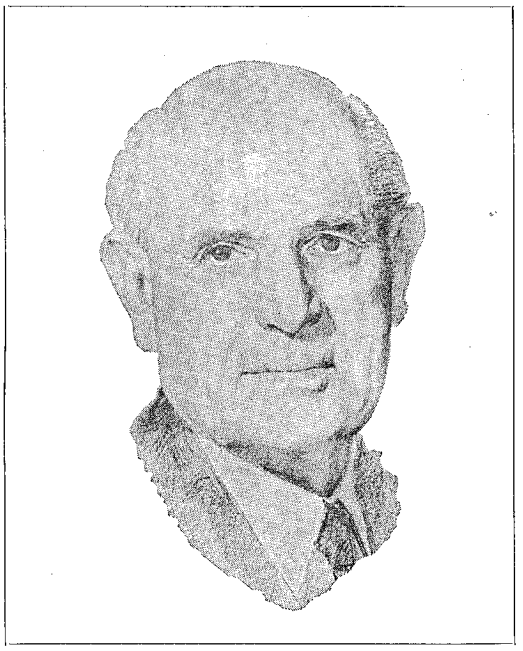
青少年問題にくわしい彼の下した結論は，この教会に属していない人々にとっては，さらに大きな衝撃だったことでしょう。私たち教会員は何十年も前から，ちょうど今彼が提唱しておられることを，すなわち父親が家族の長であるように，また，父親がその重大な責任にふさわしい者となるようにと熱心に努めてまいりました。

父母と家庭

家庭と父親，母親というものについての私たちの考えを，ここで少しとりあげてみたいと思います。子供たちに関する神の目的を理解するためには，家庭と父親や母親についての考え方を知ることが一番です。

私たちは，家庭は善良な男性と善良な女性の間の永遠に続く誓約に基づいて築かれる神聖な制度であると定義します。そこは，永遠の英知を持った永遠の御父の霊の子供が肉体を受け，この世の生活を終えた時に霊の故郷である主のみもとへ帰ることができるように，愛深く賢い両親により人生の道を教えられ，すこやかに育てられる場所です。最大の事業であるその仕事において，男性と女性はパートナーです。望むならば，二人を永遠に結ぶ誓約にサインをするのです。

しかし，この永遠の誓約には，キリスト教の結婚式を行なう多くの男女に理解されていない一面があります。それは神権ということです。神権と結婚について，最も大切なことが二つ啓示されました。第一は，聖なる神権という権能によってきよめられるのでなければ，家族の基である結婚は永遠に続きはしないということです。また第二は，誓約をする男性がまず聖なる神権を自ら受けるのでなくては，結婚は神よりの神権によって聖められるにふさわしいものとならないということです。



スチーブン　L.　リチャーズ副管長

私たちは，この世ばかりではなく，永遠のために行なわれる結婚の儀式を結び固めと呼びます。人に与えられる神権は，その人が信仰深くふさわしいならば，家を治めるすばらしい権能となること，および信仰を持つ立派な婦人は，資格ある神権者たる夫に，その召しに伴って惜しみない尊敬を払うということをはっきり理解し誓約して，善良な女性と善良な神権者は結び固められるのです。その女性は，夫が子供たちの目にすばらしい人とうつり，指導者としての責任を意識することが，世の誘惑から家族を守る一番の方法であることを知っています。教会員である女性たちは夫の神権を享受します。また彼女たちは，神権が独裁や不正な支配として表わされるのではなく，堅忍と忍耐と親切と慈悲によってのみ行使される神より与えられた力であり，「聖霊に感動しては機に臨みて激しく人を責む。然る後，また彼の汝を敵視せざらんために責めたるその人に一層の愛を示す」ものであることを知っています。（教義と聖約121：43）そして，神権には，祝福し，いやし，勧め，平和と調和を造りだす力，まことの徳が含まれていることを知っています。

男らしさを取り戻しなさい

夫が授けられた神権から離れ去るのを見る女性ほどに悲しい人はおそらくいないでしょう。そのような妻たちは，自分や子供たちの将来を心配します。良き婦人は夫が神権を正しく保つ時こそ，問題もなく慰めと従順と平安を得るのです。しかし，夫が妻や自分の聖なる召しをないがしろにするならば，妻に安らぎはないでしょう。なげき，祈り，願う彼女の

家庭の権威は父親に留まる

熱意も無駄となることがしばしばです。

神権者でありながら自ら交した誓約をおろそかにしてきた夫に対して，悲しんでいる妻や子供にかわって申します。あなたを愛する人たちを苦しめるのをやめなさい。男らしさと力を取り戻して，家族を正しく導くにふさわしくなりなさい。彼らはあなたを尊敬したいと思っています。あなたしだいで，家族の人たちはあなたを尊敬するのです。

父親のイメージを確立しなさい

今までお話してきたことは，妻や母親の多くに言えることだと思います。しかしながら，家庭内での正しい権威，指導者を尊敬しよう，尊敬の心を失うまいとけんめいに努めておられる方たちもおられるでしょう。すばらしい婦人たちは教会に大勢おられます。私はそのような方たちのなしている立派な働きに，敬意を表したいと思います。彼女たちは生活のあらゆる面で影響を与え，常にその影響力は増してゆきます。彼女たちのなしている貢献は，永遠の価値を持つものであるに違いありません。そのような女性である母親に，私の固く信じているところを申しあげたいと思います。あなたが家庭外のことにいかに優れていようとも，家庭にあって正しい妻，ふさわしい母親となることよりも高く神聖な召しや責任というものは，決してありません。あなたがどんなに立派なことをなし遂げたとしても，あなたは夫を家庭の長として尊敬する義務があり，そのことを子供にも教えなくてはならないのです。

先ほどの裁判官は，さらにこのようなことを言っておられます。「もし母親が，父親に対する高いイメージを子供たちに植えつけることの大切さを承知していたならば，子供は立派に育って，深い満足が得られたに違いない。……目に涙を浮べて私の前に立ち，『私の何がいけなかったのですか。私はどんな悪いことをしたのでしょう』と言う母親は一人もいないことであろう」

このようなお話で「口やかましい妻」という言葉を使うのは失礼なことと思いますが，あえて用いさせていただきます。私は，そのように言われる婦人は，たとえ理由が何であれ，自分が家庭の雰囲気を悪くしていることに，充分気がついておられないのだと思います。女性のみなさまに忍耐の秘けつをお話しいたしましょう。みなさまはきっと辛抱強くなれると思いますが，それだけではなく，自分をじらす人たちに親切と忍耐を示すことができるようにと願います。私は，子供の前での両親の口論は，家庭内で最もいけない取り返しのつかないことであると考えます。両親が言い争うことは，他のどんなことよりも大きな悪影響を子供に与え，家庭の平和を乱します。両親の間に意見の相違があるのは当然だと思います。関係するみんなのために，その相違をひそかに調整して下さい。忍耐の精神と責任感があるならば，それはきっとできるはずです。「口やかましい妻」が，夫にうるさく言っても，夫はそれで良くなるものではないと，私は思います。口うるさく言うことはほとんどの場合無駄であり，一致と平安を破るものです。神権によって管理される家庭では，反抗と献身が共に栄えることはありません。

……父親を家庭の長に，という考えは，ただのキャッチフレーズではありません。そのことを提唱した裁判官もよく御存知だったに違いないと思いますが，それは主より与えられた啓示なのです。

妻たる者よ。主に仕えるように自分の夫に仕えなさい。キリストが教会のかしらであって，自らは，からだなる教会の救主であられるように，夫は妻のかしらである。そして教会がキリストに仕えるように，妻もすべてのことにおいて，夫に仕えるべきである。夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように，妻を愛しなさい。（エペソ　5：22〜25）

近代に与えられた聖典も，この大切な教義を支持しています。この言葉を正しく解釈し実践する時に，善良な女性ならばそれに異議を唱えるでしょうか。子供のためを思わない母は，良い母ではありません。さきほど述べたように，家族にかしらたる者をいただくことが子供のためになるならば，妻は夫を尊敬し敬おうと努力しないで，他に何ができるでしょ

うか。尊敬しがたい夫や父親のあることは承知しております。しかし，原則を捨てて，子供たちの間で正しく善良であるという責任を父親から取り去っても，何の益にもなりません。

父親の示す模範の力

父親が家のかしらとして尊敬されるためには，言うまでもなく彼は模範者とならなくてはなりません。私がこれまで述べてきた項目に，原則が示されています。青少年犯罪を研究する人々は，社会や家庭が安全であるためには，子供が確固とした生活の標準を持たねばならないということに同意しています。善と悪とをはっきり知ることのできる，健全で賢明な親切に教え導く原則が必要です。社会学者や犯罪学者の提唱するいささか混乱した理論があふれている中で，若人の生活を導く標準をさがそうとしても，甲斐のないことであると私は思います。試みられてきて，いまだに足りないところを何一つ発見することのできないただ一つのもの，神より与えられた義と真理の原則を除いては，信頼できる標準は存在しないのです。賢い両親は，混乱した不安定な方法によって，年を経て選び抜かれてきた尊い生き方や徳性を知るようにと子供を育てるでしょうか。

昨日は，かなり良い家庭の若者が，衝動的に人を殺したくなり，少女を殺してしまったという記事が出ていました。あすにも，きっと同様の記事を目にすることでしょう。あさっても，その次の日もおそらく同じでしょう。そのように異常な人間の生活には，何か訓練に欠けているところがあることは確かです。そのことについては一昨日の夕刊にＪ．エドガー　フーバー氏[1]の意見が載っていました。

また，先日，私がさきほど引用した雑誌に「私はなぜ悪魔を信じるか」というビリー・グラハム氏の文が載っていました。彼は，その理由を三つあげています。第一に「聖書にそう書かれていること」，第二に「私はその働きをいたるところで見るから」，第三に「偉大な学者たちがその存在を認めているから」ということです。

第一の理由はもっともです。主はサタンの存在していることや，生命と救いの永遠の計画の中にサタンがどのような位置を占め，どのような働きをしているかを啓示されました。ビリー・グラハム氏はモルモン経や教義と聖約という近代の聖典にその同じことが啓示されていることを御存知でなかったでしょう。もし知っておられたならきっとこの言葉を引用されたに違いないと思います。

「……悪魔が人の子らを試むるは是非必要なり。すなわち人は悪魔の誘惑なければ己が自由意志を使い得ず，何となれば，人もし苦きを知らざれば甘きを知り得ざればなり」（教義と聖約29：39）

この聖句やその他の聖句で，人間は悪の父であるサタンの力に影響されなくては，人格に強さを増して悪に対抗し，完全へと進むために自由意志を行使することができないと教えられています。詭弁をろうする人々は，そのような力を持ったサタンについての考えをあざけりますが，サタンの実在が啓示によって教えられていることやその働きが記録されていることは，見逃すことのできない事実です。

日曜学校の教師を始めとして，人々は成長期にある子供たちに善悪についての知識を教えます。しかし，誘惑に抵抗できるように，子供に悪魔の力を教え，必要な抵抗力をつけてあげるのにふさわしい人は，父親を除いて他にいるでしょうか。家族の長たる父親のように，模範の力によって正しい標準と徳を示すことのできる人はいったいいるでしょうか。

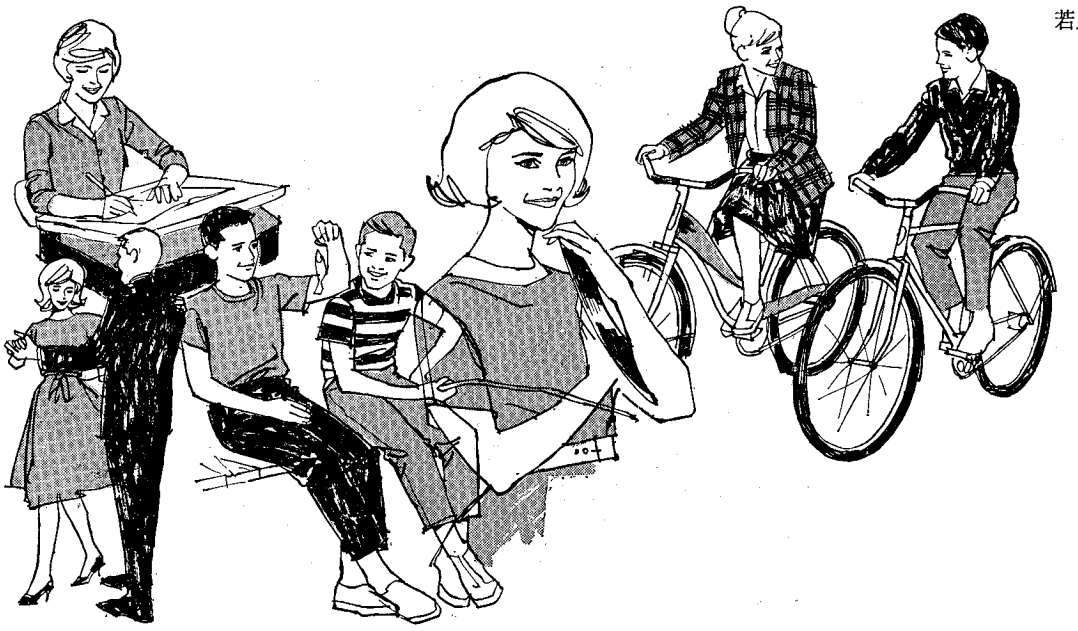
秩序が天の律法であり，神の王国が義の原則によって建てられていることを信じるすべての人に，尋ねたいと思います。律法や規律なしに秩序は保たれるでしょうか。権威を認めずに規律は存在するでしょうか。人間の作った組織や国家で，権威がある人々に与えられるのは，当然ではありませんか。家庭における権威を，生来神聖な秩序によって授けられそれを最もよく行使できるのは，その家族の父親ではありませんか。

家庭における秩序は王国の秩序をもたらす

神の王国の秩序に最も大きな貢献をなすのは，家庭を除いてどこでしょうか。……神の愛と，いましめに従う者に用意された永遠の祝福を受けるにふさわしくなるよう，若人を，愛と確固とした信念をもって備えさせることよりも大きな親切は，あるでしょうか。……少しのちゅうちょもためらいもなく，はっきり申します。父親を家長の地位に戻しなさいという，この健全な実り多い勧めを，あなたの家庭で実行して下さい。教会員の母親たちに対する私の敬意と感謝は，言葉に尽すことができないほどに深いものです。母親たちの愛と忍耐に富んだ奉仕は，徳高い善良な男女を育てる大きな力となるでしょう。家族の人々と家庭を愛するが故に，母親たちは必ずや私の申しあげた勧めに耳を傾けられるに違いありません。現代だけではなく将来の人々のためにも，生活をおびやかし勢いを増してゆく災難から愛する人々を守ろうと，正しいことは進んで実行しようと思われるに違いないことを私は知っております。

神が私たちの国と全世界の国々において，各家庭を祝福なさいますように。子供たちを祝福したもうて，彼らが真理と義を知り，あらゆる良きものを生活に実践できますように。また，母親を祝福したまい，家庭に愛を満たすことができますように。そして，父親を祝福したもうて，彼らが愛と親切と威厳と誇りをもって，本来の家長たる地位にふさわしい者となれますように。

[1] Ｊ．エドガー　フーバー，合衆国ＦＢＩ長官



救い主との約束

W. ディーン ベルナップ 博士

教会の青年には永遠の家族を築くという責任が課せられている。どのようにしたら，その責任をよく効果的に果たすことができるのだろうか。大管長会は神権系図委員会と教会の青少年コリレーション委員会にこのチャレンジを与えた。

このように学習と活動の両面に共通のプログラムが青少年のために作成された。今日，さかんに言われている世代の差というものも，永遠の家族という考えを推し進めて行けば，解消されるであろう。もし，青年たちが自分は何者なのか，すなわちすばらしい神権系統の子孫であり継承者であることに気づくようになれば，世代の差はなくなるのである。

世代の差はカインが神に背き，アダムとイヴから遠ざかった時に始まる。もし，カインが自分のすばらしい可能性と血統に気づき，神権の教えに従っていたとしたら，世代の差はその時始まっていなかったであろう。世代の相違はこの時以来今日に至るまで存在している。

たぶん歴史を通じてかつてなかったほど多く，今日の青年は，自己意識，家族，教会との関係，聖徒たちとの関係に目を向ける必要がある。主が少年に12歳で神権とそれに伴う権能を与えたもうのは偶然のことのように思えるがそうではない。同時に，同年代の少女も神権者ほどではないが将来夫と共に神権の恵みを享受する者として，自分の生活に神権の力を感ずる必要がある。

大人の門口に立っている若人は，前世で予任されていた責任を意識して，この世の使命に気づかなくてはならない。聖典を理解し，有意義な経験を通じてこそ，生得の権利，前世で救い主と交わした約束に気づくことができるのである。また，彼らは救い主の計画を喜び，神権の権能を受け入れ，それで神の王国を建設し，治めることに双手を挙げて賛成したことを知らなければならない。

アロン神権の青少年と同年代の少女のために，7年間にわたる準備のプログラムが組まれている。主の宮における日の栄光または永遠の結婚の目標は，若い二人の過去と未来の血統を結ぶことである。青年の間に，若人は，メルケゼデク神権の誓詞と誓約を受け入れる資格を持ち，救い主と共に働けるように神権組織で教育を受ける。

この訓練計画で第一に強調すべきことは，系図および神殿事業に参加して永遠の家族というものを理解することである。執事とビーハイブの少女たちは両親の協力を得て覚えの書を作成するよう要求されるであろう。それは生涯のものである。さらに項目を書き加え，死者のためのバプテスマを行なった記録を残すのである。

マイア・メイドとローレル，教師と祭司のプログラムにおいても，永遠の家族を通じて一致を見出すことに強調がおかれている。またエンダウメントと結び固めに目を向け，準備させるため，神殿の目的に関して指示が与えられる。

教会の指導者たちは次代の人々に関心を抱いている。また青年が愛の概念と他人と自分との関係について学ぶかどうかに関心を示している。そして，家族の永遠性を理解することこそが，その最善の方法なのである。青年は天父や長子である救い主からだけでなく，この世の両親からも大きなものを受け継いでいることを知る必要がある。愛などの多くの賜は永遠の家族関係を通じて代々受け継がれていくのである。

勇気という山の上で

ウエイン　リン

英雄の時代は過ぎ去ってしまったと言う人々がいます。またある人は，現代の若者にはかつての若者が持ち合わせていたような勇気が見られないとも言います。しかし私は，先日，若者の持つ勇気というものをまざまざと目の前に見たのです。その勇気のあまりの素晴らしさに私の胸は高まり，息のつまる思いでした。そしてすっくと立ちあがり思わず「頑張れ！頑張るんだ！」と叫びたい気持ちでした。

私は火事でごうごうと燃えあがる建物の中に，この勇気ある行ないを見たのでもなく，渦を巻いて流れる氷のような冷たい川に，人命救助で飛び込むのを見たわけでもありません。またスピードをあげて走って来る車の前をよちよち歩いていく子供を助けようと我を忘れてかけ寄る姿を目にしたのでもなく，弱い者を脅かすあばれ者を退治した人の腕力と勇気に驚いたわけでもありません。

それはごく普通のところで起こりました。最も勇気ある行ないはそのようなところにも見られるのです。ある暑い七月の午後のステーキ部神権会のことでした。礼拝堂は満員で全員が入りきれず，レクリエーションホールと礼拝堂の仕切りのドアを開かなければならないほどでした。愛するステーキ部長管理のもとに開かれたその日のステーキ部神権会には，特別な「みたま」が宿っているのを感じました。

祭司と思われる年齢の若者が一人，前の段のかなり目立つ所に，ステーキ部長会の人々と並んで座っていました。私は彼がきょうの神権会で何か責任が与えられているのだろうと思い，同時にその若者がなんとか気を鎮めようとしているのを見て同情の気持を持ちました。

まもなくステーキ部長がその若者を次の話し手として紹介すると，彼は静かに立ち上がり，説教台の前に立ちました。彼の外見的な落ち着きが心の冷静さをかもしだしていました。しかし最前列に近い私の席からは，恐れを克服しようとしているかのように手が震えているのが見えました。

大きく深呼吸してから彼は話しはじめました。彼がこの日のために前々から準備していたことはすぐにわかりました。ただ時おり手元の原稿に目をやる程度でした。私は少しゆったりした気持ちで彼の話に聞き入っていました，がしだいに彼の話の口調が早くなっていくのに気づきました。言葉があまり早く口をついて出てくるので同じ言葉を必要以上に何度も繰返すのです。次の言葉の途中で彼はどもってしまいました。すっかりあがってしまい，ますますどもりが激しくなり，ついには一言も言葉が出なくなってしまったのです。

同情にも似た静けさが会堂にひろまりました。私は彼を勇気づけ，なんとかして同情の気持ちを伝えたいと思ったのですが，他の人々と同様に静かに待ちました。きょうではなくまた別の機会に話したいという言葉が彼の口から出るのを待ちました。そしてその場に立ちながら，彼が心の中で必死に闘っているのがわかりました。その時です。彼は肩をいからせ，ぐっと身を引き締めたかと思うと次のように言ったのです。私は今でもその言葉をはっきり思い出すことができます。「兄弟姉妹の皆さん，私がはっきり話すことができるように，皆さんの祈りと信仰の助けをいただきたいと思います。」

私はまるでそこに奇蹟をみたかのようでした。彼は再びゆっくりと，慎重に，しかも自信と確信を持って話しはじめました。話をすすめる彼の声は，私の心をゆすぶりました。私の記憶から決してぬぐい去ることのできない強い印象を与えたのは，彼の発した言葉そのものよりも，自分自身の願いをこめて語ったその話の内容でした。

私が何か困難な責任を果たすように言われたとしても，決してあの若者と同じようにはなれないでしょう。しかし恐らく私も，あの勇気ある若者の示してくれた道と同じところまで歩み寄ることができるかもしれません。なぜなら彼は勇気という山に登り，その絶壁に立ってひるむことを知らなかったからです。

まもなく彼の話は終りました。手元の原稿をそろえ，説教台を降りた時，私はそこに白いワイシャツを着た一人の青年以上のものを見ました。私はそこに，輝くよろいをまとい剣を腰に帯び，勝利を手にした一人の騎士を見たのです。讃美歌の言葉が強く私の心を呼びさまし，その叫び声が聞こえてくるようでした。

「見よ王の軍は　　旗をかかげ
　生命のいくさ　　勝ちて進む
　つわものこぞり　強く雄々し
　指揮者につづき　うたい進む
　勝利よ勝利よ……　　」

王の軍がここで述べた若者のような人々でいっぱいになる時，この讃美歌に歌われているような勝利を手にすることができるのです。

もういちど

チャールズ R. ファーデン

長く暑い日だった。すでに太陽は地平線に低く落ち，夜のとばりがおり始めて，ほっとした安らぎを与えていた。終日を，ちらし配りと伝道に費した二人の宣教師が，冷たいシャワーとおいしい食事を楽しみに，家路を急いでいた。

砂ぼこりに埋まる道を走っていた彼らの車は，突然，道が二つに分れているところで止まった。長老たちは砂ぼこりのあがる中に，丘へ続いている小道をみつけた。

「この前ぼくたちがサムの所へ行った時から，どれくらいたつのだろう」。一人がそう尋ねると，他の一人が答えた。「だいたい三週間位だと思うよ」。

サムは，幾度も，教会はどうしてこんな青二才をこのような田舎までよこして神さまのことを教えさせるのか，理解できないと言っていた。サムは長老たちを人間としては尊敬していたが，彼らが話をしている時によく居眠りをしていた。長老たちは何回もレッスンをしようとしたが，彼はいつも，何か理由をつけてどこかにでかけるのだった。

二人の長老は，サムのインディアン小屋に続く曲がりくねった道をながめた。彼らはサムの家族を訪ねてみなければならないことはわかっていたが，すでに時間が遅かった。彼の小屋にたどりつくまでには，すっかり暗くなってしまうだろう。暑い昼の太陽が沈んで，サムはごきげんな時分だ。二人が行ったら，そんな気持はいっぺんにさめてしまうに違いない。おまけに，この前の時から何週間もたっている。サムの家族はまだ仕事でもしているだろうか。それとも食事中か，夕べのひとときをくつろいでいるのだろうか。サムがぼんやりと木の下で夕涼みでもしていたら，自分たちを喜んで迎えてくれるだろうかと心配だった。

どっちにしても，良くなかった。サムに会いに出かけても気持良いものではないだろうし，このまま引き返しても夕べの食事がまずくなりそうだ。

サムの一家は夏の間，涼しい山頂へ住まいを移していたので，ほこりにまみれて長い道を行かなくてはならなかった。長老たちがサムの家にやっとたどりついたのは，夕やけが丘のてっぺんにかすかに映える頃だった。

ようやく小屋の近くまで行くと，サムは夏用に新しく作った囲いの中に羊を追いこんでいた。サムは車の方に近づいて

きて，二言三言あいさつをしたが，高地になれない羊に手間がかかることを口実に，ふたりを帰そうと考えたようだった。

長老たちは，羊がどこに入ろうかと迷っているのを見てとり，少しの手伝いなら迷惑ではないだろうと考え，車から降りていっしょに羊を追った。サムはいっしょになって働くふたりを見て困惑しながらも，彼らをよく見ていた。

彼らが囲いの戸をしめた時には，ちょうどサムの妻と子供たちも帰ってきた。サムは家族を見て，次に長老たちに向かい，「家に入って，祈りましょう」と言った。長老たちはこの言葉に少なからず驚いた。というのは，彼はそれまでナバホ族の仲間に何度も祈ってくれと言われながらも，祈りには少しも関心を示さなかったからである。

祈りを終えると，一瞬沈黙がおとずれた。長老たちは，帰ってほしいと言われるだろうと，なかばあきらめた気持だったが，はじめて，家族の人たちがレッスンを聞いてくれるかどうか尋ねてみた。サムはざっと家族をみわたし，反対の言葉が出ないのを見て承諾した。長老たちはさっそくかばんをあけて，汚れた床に教材を広げた。

ふたりはレッスンをしながら，サムと家族の顔をみつめた。彼らの表情は前と変わってはいなかった。疑問があるふうにも見えず，ふたりの言うことを受け入れるようにも見えず，ただ二人の方を見て話を聞くだけだった。レッスンが終っても，質問は一つも出なかった。家族の人たちは聞いたことについて考えている様子だったが，長老たちはがっかりした気持を感じていた。

短い祈りが終わると，長老はひとりひとりと握手をし，礼を述べた。

戸のところまでふたりを送ったサムは，まだその時も，眠っているのか深くめい想しているのか，笑顔も見せず特に何も言わなかった。ふたりがわかれを告げて外へ出ると，サムは突然彼らを呼びとめた。「わたしは，モルモンについて前には知らなかったことを，きょう初めて知りました。とても良かった。いつでも来て下さい。いつだっていいですよ」

家へ帰る途中，長老たちは，大きな障害物をやっと乗り越えた心地がした。ひとりがもうひとりの顔を見て，うれしそうな様子で言った。「今晩は君が夕食当番だね。」「うん」。そう答えた長老に向かって，先の長老は言った。「きのう作ってくれた煮すぎた豆のほかに，今日の献立は何だろうな」。

※ユタ州のグレインジャー第20ワード部日曜学校会長会に属し，製図工を職業としているチャールズ R. ファーデン兄弟は，アメリカ西南部でのインディアン宣教師としての体験をもとに，この伝道の話を書きました。

北海道大会

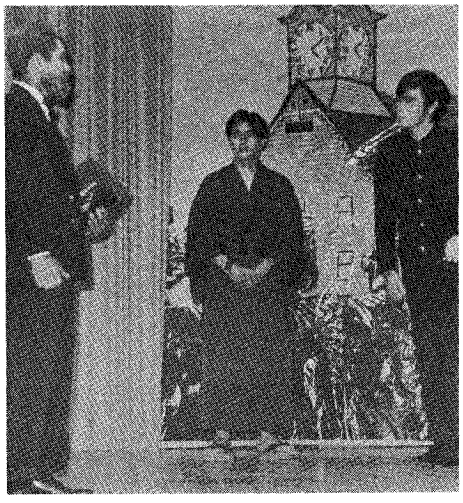
10月11，12日．マッコンキー長老を迎え，札幌支部にて，北海道大会が開かれた。

札幌の空港で歓迎を受けるマッコンキーご夫妻

子供たちのコーラス

兄弟，姉妹に語るマッコンキー長老

北海道100年の歴史（MIA）



贈り物を受けるマッコンキーご夫妻

第2回

東北地方部大会

9月27，28日仙台において第2回東北地方部大会が，179名の出席者により盛大に開かれた。

大会は強い証に満ちた会であり，出席者の全てが異口同音に〝霊的に成長できた〟と語っていた。

プライマリーの証をする地方部長のお嬢さん

初等協会会長のあいさつ

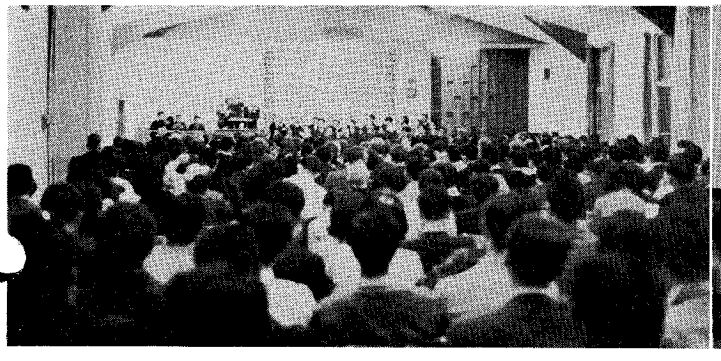
楽しい一時をすごす兄弟，姉妹

特　別　大　会（東中央地方部）

ブルース　R.・マッコンキー長老をむかえた特別大会が10月10日東京北支部において盛大に開かれた。

モルモン経プログラムについて語るビルス伝道部長

日本語のモルモン経を手にするマッコンキー長老



すばらしいメッセージを聞く兄弟，姉妹

マッコンキー姉妹

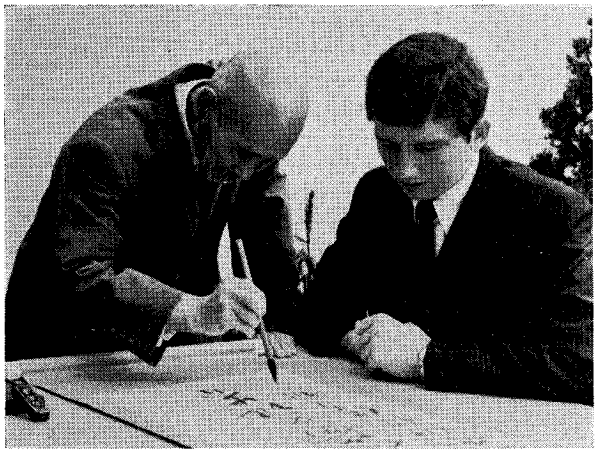
日本沖縄伝道部より**

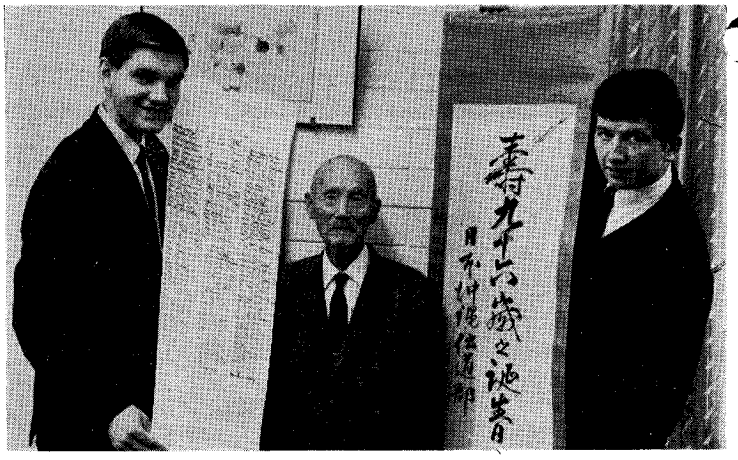
96歳になられた長寿な愛するマッケイ大管長へ

＊この9月6日に愛するデビド O. マッケイ大管長は96歳の誕生日をお迎えになられました。そこで私たちの伝道部のこの喜びの日をお祝いする気持を送りましょうと伝道部の最長老であられる周藤珠彦兄弟の肉筆による掛字をお送りすることになりました。また伝道部内の宣教師たちによるサイン集も出来あがり，これらを一緒にお送りすることにしました。

岡崎伝道部長はいつも良く気づかれ，〝人の和〟を大切にされます。私たちは岡崎伝道部長が日本人の良い習慣を示されるたびにもっとほんとうの日本人であらねばと感じます。

この贈り物を大管長はお喜びになられたと思います。なぜなら，私たちが主の福音に接して，喜びを感じ，主の召された大管長を支持している気持をくみとられたにちがいないからです。増々，お元気で私たちの大管長として働かれるようにお祈りしたいと思います。





＊結　婚

私たちは結婚しました。どうぞよろしく。

7月　那覇支部，佐久間保兄弟と安次峯和子姉妹（写真左）

9月　西宮支部，鳥居定幸兄弟と森美智子姉妹（写真右）

ビクター L.ブラウン副監督 来阪される

＊管理監督会，第二副監督のビクターL．ブラウン長老が翻訳事業部の方々と共に大阪の地に立ち寄られ，万国博会場，阿倍野支部を訪問されました。
阿倍野支部にて聖餐式に列席され，マッケイ大管長のユーモアのある話，多くの国民に伝えるべき翻訳事業のお話などされた後，親しく兄弟姉妹たちと交歓されました。
<写真は阿倍野支部にて>

ハワイ神殿訪問計画

＊1970年度の神殿訪問計画の日程が神殿側の都合により8月1日より11日までと変更になりました。当伝道部では予約者が現在131名に達していますが余裕がありますので支部長を通じて早急にお申し込み下さい。

＊支部紹介　阿倍野支部

阿倍野支部では先頃160名に達する出席者をお迎えする様になり新たに大阪の南の地，堺に支部を設け分割の運びとなりました。
熱心な宣教師たちの働きで毎月15名近くの人々が改宗されて新しい末日聖徒が誕生しています。あたかも主の再臨の備えの時のようです。そして新しい会員の方々を出来るだけ早く立派な会員に……を目標にフエローシップ・プログラムの運営に大わらわです。
先日の祭日を利用してアロン神権者たちの計画したみかん狩りがありました。初秋の空のもと，楽しい食べほうだい・みかん狩りは支部の若さを象徴しているようでした。
<左の写真は伝道部誕生祭にて。右の写真はみかん狩りにて>

聖徒の道
昭和四十二年十二月十八日第三種郵便物認可
一九六九年十一月二十日発行（毎月一回二十日発行）三巻第十一号

ふさわしくなること

リチャード　L．エバンズ

ジョージ　エリオット[1]が、我々に向かって言っている、「それを用いない人にとっては、一体機会とは何であろう」。この言葉は、人生の準備の時期にある人々にとって、特別の意味がある。人生はすみやかに過ぎ行く。責任は増して行き、準備する機会は減って行く。若人は、才能や技術を伸ばし、人生の大部分を占める職業のために準備をする機会を、どうしておろそかにすることができよう。学ぶ機会がありながら、それを避けて気ままに日を過ごし、将来に対する失望と不満をつのらせることはなぜなのか。人生とは、我々の持てるすべてである。生命、手と心、筋肉、霊や準備しようとの心構え、喜んで労働に携わる心。将来経済の変化に伴って、訓練を受けなかったことについて後悔しなくてよいように、我々が若人の心と精神に、教育の恵み、立派な目標を選び、それに向かって働くことの恵み、ふさわしい者となることの祝福を植えつけることができたなら……。生命、心、時間、才能、それらは道具である。耐え抜き、力を増し、奉仕するために、できるだけよくとぎすまされるべき道具である。デズレイリ[2]は言った、「成功の秘訣は、来たるべき機会に備えて準備することである」。今ここにいない人にも、すべての若者に言いたい。可能な限りより高きにまで、教育を求め、準備をなし、自己を進歩させなさい。能力を身につけ、生活に、教育に、人生に、すぐれた人となりなさい。良いものを知り、良いことを行ない、提供できるものを持ち、ぎりぎりのところで自分のためにのみ生きるのではなく、家族や社会や国にとって有益な人となりなさい。自ら仕え、他人に必要とされ、感謝される時の大きな喜びを経験しなさい。「それを用いない人にとっては、一体機会とは何であろう」

1、ジョージ　エリオット（メアリー　アン　エバンズのペンネーム）1819～1880、英国の作家
2、ベンジャミン　デズレイリ、1804～1881、英国の政治家、小説家

聖徒の道
1969年11月20日発行
振替口座　東京76226番
発行人兼編集人　ウォルターR.ビルス
発行所　東京都港区南麻布5－8－10
末日聖徒イエス・キリスト教会　電話（442）7438
印刷所　太陽印刷工業株式会社
定　価　100円
予　約　一年間1,000円（外国4ドル50セント）
電報受信略号「トウキョウ」マツジツ